

平成27年度訪口青年ビジネスチャレンジ事業
報告書



平成28年1月

秋田県

ごあいさつ

秋田県と沿海地方とは、2010年3月に友好協定を締結し、本年5周年を迎えました。この記念すべき年にあたり、7月に本県産業界の若手リーダー31名の方々とともにロシア極東地域を訪問することができたことを嬉しく思います。

沿海地方への訪問につきましては、7月13日にAPECの会場にもなった極東連邦大学において、友好提携5周年記念フォーラムを開催したところ、当日は折よく、ウラジオストク自由港法案にプーチン大統領が署名した日と重なったことから、日本及びロシアの報道で大々的に取り上げられました。

秋田にとっては、ロシア極東地域が、地理的に最も近い海外の地域であり、古くから、ロシアとは、木材貿易などを通じた交流が行われており、我が国の中でも歴史的にロシアとのつながりが深い地域であります。

また、1970年代には、私も参加したことがある「訪ソ青年の船」などによる青年交流も行われており、本県から約1,800名もの若者が当時のソビエト連邦を訪れており、秋田は長きにわたり、ロシアとの交流を続けてまいりました。

2013年に、プーチン大統領に、東日本大震災の被災地支援に対するお礼と大統領就任のお祝いとして、秋田犬の「ゆめ」を贈呈したところ、大統領からは、シベリア猫の「ミール君」が贈られ、現在、我が家の一員として、また、秋田とロシアを結ぶ架け橋として大切に育てております。

今回の訪問では、若手リーダーの方々が、当地の企業や産業施設等の状況を視察するとともに、産業界の方々と情報交換会等を通じて、両地域の今後の発展に向けて、交流を深めてまいりました。参加者それぞれがロシアの状況を実際に見るとともに、秋田を見つめ直す機会となるなど、大いに視野を広げることができたものと思います。参加者の皆様には、今後はこの経験を様々な形で活かしていただくことを期待しております。

事業を行ううえでのヒントとなるようなものを見つけられた方もいたと思います。今後はそうしたものを活かしていただきたいと思います。

今後とも、相互の発展のため、沿海地方を始めとする極東地域との多様な分野における交流の拡大につなげてまいりたいと考えております。

平成28年1月

秋田県知事 佐竹 敬久

～目次～

日程表	1
参加者名簿	2
訪問概要	4
事前研修会	33
報告会	53
参加者アンケート	57
参加者による報告書	61

～参考～

ロシア極東の農業事情視察 専門家派遣事業報告書	92
-------------------------	----

訪口青年ビジネスチャレンジ事業訪問日程

月日	【1班:ウラジオストク・ハバロフスクコース】		【2班:ウラジオストク・イルクーツクコース】		
	時間	内容	時間	内容	
1 7月12日 (日)	8:30	秋田空港集合、チェックイン			
	9:40	秋田空港発(NH404)			
	10:45	羽田空港着			
	12:40	出発前ミーティング(成田空港国際線第二ターミナル内会議室)			
	15:40	成田空港発(S7 566)			
	19:20	ウラジオストク空港着			
	21:00	結団式・交流会(夕食)			
				【ウラジオストク泊】	
2 7月13日 (月)	9:00	ホテル発			
	10:00-11:00	ウラジオストク日本センター(沿海地方経済事情フリーフィング) 会場:沿海地方行政政府本庁舎			
	10:00-10:30	沿海地方知事会談 会場:沿海地方知事公舎			
	14:00	秋田県・沿海地方友好提携5周年記念フォーラム 会場:ルースキー島極東連邦大学B棟 ・両知事記念講演 ・情報交換会			
	16:00	レセプション 会場:ヒュンダイホテル			
	18:00				【ウラジオストク泊】
3 7月14日 (火)		自動車・港湾視察班 8:30 ホテル発		食品産業・住宅視察班(A・B2グループ)	
		10:00~11:30 スモートリ(トラック架装工場)		8:45 ホテル発	
		11:40~12:00 プリムリング(サーキット場)		9:30~11:45 ロゴスホーム(住宅会社)	
		13:30~14:00 オートサロン		13:15~15:15 沿海製菓、だんらん(日本食品販売店)	
		15:30~17:00 ウラジオストク商業港		15:45~17:00 フレッシュ25(スーパーマーケット)	
	18:00	沿海地方知事主催夕食会			【ウラジオストク泊】
4 7月15日 (水)	9:00	ホテル発	8:00	ホテル発	
	10:00-11:00	極東連邦大学医学部高度医療センター	11:10	ウラジオストク空港発(S7 3274)	
	11:30-12:00	極東連邦大学	13:55	イルクーツク空港着	
	14:30-15:15	ザハール(建設会社)	15:00	観光インフラ施設視察(バイカル湖近郊)	
	18:00	夕食	18:00	夕食(リストヴァンカ村)	
	21:00	ウラジオストク駅発(オケアン号) ～シベリア鉄道体験～			【イルクーツク泊】
5 7月16日 (木)	8:15	ハバロフスク駅着	9:30	ホテル発	
	13:00-14:00	企業訪問 エネルコ・インハルス(野菜栽培工場)	10:00	市内視察	
	14:30-15:30	ハバロフスク地方議会副議長会談	11:40-12:40	スラータ(スーパーマーケット)	
	16:00-17:00	企業訪問 ハルチ(全国区銘柄ビール工場)	15:00	情報交換会開催 会場:マリオット	
	18:00	夕食	18:00	レセプション 会場:マリオット	
					【ハバロフスク泊】 【イルクーツク泊】
6 7月17日 (金)	8:30	ホテル発	9:00	ホテル発	
	10:00	企業訪問 乳製品製造工場	9:30-10:00	イルクーツク州知事会談	
	15:00	情報交換会開催 会場:ハルス	11:30-12:20	農業視察(大規模農場、乳製品製造)	
	18:00	レセプション 会場:ハルス	12:35-13:35	ペロレチェンスコエ(養鶏場)	
			18:00	夕食	
			22:00	ホテル発	
7 7月18日 (土)			0:45	イルクーツク空港発(SU5653)	
			6:05	ハバロフスク空港着	
				ホテルチェックイン、朝食	
		10:00-11:00	ハバロフスク地方知事会談		
		12:00-13:00	在ハバロフスク日本総領事主催昼食会		
		13:30-15:00	商業施設視察 サンベリ(大型ショッピングセンター)		
		15:00-16:00	市内視察		
	19:00	解団式・交流会(夕食)		【ハバロフスク泊】	
8 7月19日 (日)	9:00	ホテル発			
	9:30	日本人墓地			
	11:50	ハバロフスク空港発(S7 567)			
	13:35	成田空港着			
	17:40	羽田空港発(NH407)			
	18:45	秋田空港着			

訪口青年ビジネスチャレンジ事業参加者名簿

	所属	役職	氏名	業種	7月14日(ウラジオストク)		
					自動車・港 湾視察	食品・住宅 視察(A)	食品・住宅 視察(B)
【第1班 ウラジオストク・ハバロフスクコース】							
1	秋田県議会	議長	渋谷 正敏	県議会	○		
2	秋田県議会	議員	佐藤 雄孝	県議会	○		
3	秋田県農林水産部農林政策課	研究推進班上席主幹	佐藤 雄幸	行政		○	
4	秋田基準寝具(株)	代表取締役	柳原 正俊	商業	○		
5	秋田基準寝具(株)		柳原 弘幸	商業	○		
6	(株)日産サティオ秋田	常務取締役	尻玉 純一	商業	○		
7	(株)秋田スズキ	常務取締役	石黒 佐太郎	商業	○		
8	早口木材		大坂 元	林業		○	
9	秋田県森林組合連合会	販売課技師	酒井 森	林業		○	
10	秋田海陸運送(株)	通関チーム主任	吉田 大作	海運	○		
11	(株)能代資源	取締役常務	佐藤 裕之	再生資源	○		
12	能代電設工業(株)	専務取締役	山田 雄太	建設	○		
13	小室金物店		小室 智蔵	建設		○	
14	(株)昭和興業	営業本部長	中村 嘉伸	水処理		○	
15	(株)アルテ	代表取締役	時田 和幸	デザイン企画		○	
16	トラベルデザイン(株)		村岡 悠司	旅行企画		○	
17	医療法人城東整形外科	理事	水谷 脩	医療		○	
18	協働不動産(株)	取締役	浅利 太郎	保険		○	
19	(公財)秋田県国際交流協会	国際交流推進員	佐々木 美紗都	国際交流		○	
20	秋田県議会	事務局次長	小野崎 大	県議会事務局	○		
【事務局】							
21	秋田県企画振興部	部長	相場 哲也	行政	○		
22	秋田県企画振興部国際課	副主幹兼班長	須磨 武	行政	○		
23	秋田県企画振興部国際課	専門員	伊藤 金一郎	行政		○	
24	秋田県産業労働部商業貿易課	副主幹	糸屋 智喜	行政		○	
25	JTB東北法人営業秋田支店	グループリーダー	岩本 文仁	添乗員			
【第2班 ウラジオストク・イルクーツクコース】							
1	秋田県	知事	佐竹 敬久	行政	○		
2	秋田県議会	議員	佐藤 賢一郎	県議会	○		
3	秋田県議会	議員	土谷 勝悦	県議会	○		
4	秋田県議会	議員	東海林 洋	県議会	○		
5	秋田商工会議所	会頭	三浦 廣巳	商工	○		
6	(株)秋田銀行	常務取締役	高田 真千	金融			○
7	(株)秋田銀行	大館支店支店長代理	林 宏樹	金融			○
8	構見内営農組合		首藤 智巳	農業			○
9	(有)アグリ川田	取締役	川田 将平	農業			○
10	農事組合法人たねっこ	統括主任	工藤 浩一	農業			○
11	JA全農あきた	米穀部米穀販売課調査役	柳田 嘉宏	農業			○
12	JA秋田中央会	担い手支援室	小林 正弥	農業			○
13	(株)秋田ニューバイオファーム	ガーデン部門長	佐々木 洋平	農業			○
14	(有)ライスロッヂ大湯	代表取締役	黒瀬 友基	農業			○
15	(有)藤岡農産	専務取締役	藤岡 智洋	農業		○	
16	阿櫻酒造(株)	取締役副社長	山岸 逸人	製造			○
17	(株)アイセス	常務取締役	齋藤 徹	製造	○		
18	東電化工業(株)	代表取締役社長	若泉 裕明	製造	○		
19	(株)ドリームリンク	取締役	原野 正	飲食			○
20	(株)沢木組	専務取締役	沢木 雄一	建設	○		
21	日本通運(株)秋田支店	総務 主任	渡邊 勇輔	運送	○		
22	秋田日産自動車(株)	代表取締役社長	三浦 寛人	商業	○		
23	国際教養大学アジア地域研究連携機構	特任教授	竹村 豊	学術	○		
24	秋田県総務部秘書課	政策監	齋藤 正和	行政	○		
25	読売新聞秋田支局	記者	宮沢 輝夫	メディア			
【事務局】							
26	秋田県企画振興部国際課	課長	山脇 幸美	行政			○
27	秋田県企画振興部国際課	国際交流員	ソボレフ・ワジム	行政	○		
28	秋田県産業労働部商業貿易課	貿易振興監	大池 幸彦	行政	○		
29	JTB東北法人営業秋田支店	営業第一課長	柏原 裕之	添乗員			

訪問先



訪問概要

この度、秋田県ではロシア沿海地方との友好協定締結5周年を迎えるに当たり、新たな産業交流の可能性を発掘するため、知事を団長として県内産業界の若手リーダーとともにロシア極東地域を訪問し、現地の企業・産業施設の視察や産業関係者との交流を行いました。

また、ウラジオストク・ハバロフスク・イルクーツクでは知事会談を行ったほか、ハバロフスクでは地方議会副議長会談を実施し、自治体交流を促進しました。

1. 事業の趣旨

本県とロシア極東地域との新たな交流の可能性を発掘するため、県内産業界の若手リーダーから成る訪問団を派遣し、現地産業界との情報交換や企業訪問などを行う。

2. 期間

平成27年7月12日(日)～7月19日(日)

3. 参加者

別添参加者名簿のとおり

4. 事業内容

【共通】(ウラジオストク)

- 7/13 沿海地方経済事情ブリーフィング
秋田県・沿海地方友好提携5周年記念フォーラム、情報交換会
- 7/14 現地企業・産業施設等視察
(自動車関連・港湾視察班と食品産業・住宅建設視察班の2班で実施)
- 7/18 商業施設視察

【ハバロフスクコース】

- 7/15 極東連邦大学及び建設会社視察(ウラジオストク)
シベリア鉄道体験
- 7/16 野菜栽培工場、ビール工場視察
- 7/17 乳製品製造工場視察、情報交換会

【イルクーツクコース】

- 7/15 観光インフラ施設視察
- 7/16 商業施設視察、情報交換会
- 7/17 大規模農業工場、養鶏場視察

【知事・議長参加事業】

- 7/13 沿海地方知事会談
- 7/17 イルクーツク州知事会談
- 7/18 ハバロフスク地方知事会談
- 7/16 ハバロフスク地方議会副議長会談

5. 日程表

別添日程表のとおり

1日目 平成27年7月12日(日)

(1) 行程

時間	内容	備考
8:30	秋田空港集合、チェックイン	
9:40	秋田空港発、(NH404)	
10:45	羽田空港着、成田空港へ移動	
15:40	成田空港発 (S7 566)	
19:20	ウラジオストク空港着、食事	
22:00	ホテルにチェックイン	

2日目 平成27年7月13日(月)

(1) 行程

時間	内容	備考
9:00	ホテル出発	
10:00	沿海地方経済事情ブリーフィング (知事等は知事会談)	沿海地方行政庁舎
12:00	昼食	
14:00	沿海地方友好提携5周年記念フォーラム	極東連邦大学
16:00	情報交換会	
18:00	記念レセプション	

(2) 内容

【沿海地方知事会談】

時間：10:00～11:00

会場：沿海地方知事公舎

出席者：ミクルシェフスキー沿海地方知事、佐竹知事、渋谷県議会議長、三浦秋田商工会議所会頭

1. 沿海地方知事

- ・ウラジオストク自由港が連邦法で採択され、関税免除、税制優遇されるほか、VISA 免除制度(8日間)も開始するので多くの日本の投資、観光客を待っている。
- ・ウラジオストクを含め周辺15の行政区が先進発展地区(経済特区)に指定されることにより、産業発展を図っていく予定。
- ・(秋田への訪問要請に対し)招待に感謝する。愛犬の秋田犬も知事夫人から頂いたものなので是非行きたい。お互いの関係が深まることにより経済発展地区のプロジェクトも進むと期待している。



【沿海地方経済事情ブリーフィング】

時間：10:00～11:00

会場：沿海地方行政政府本庁舎 1階 会議ホール

講師：ウラジオストク日本センター所長 河原 和尊

プレゼンテーション資料に基づき、説明。概要は以下のとおり。

- ・ロシアは8連邦管区に分かれており、極東連邦管区は面積5,144千㎡（前ロシアの36%）であるが、人口は6,211千人（前ロシアの4%）程度。8つの連邦管区に分かれ、沿海地方やハバロフスク地方など、秋田にも身近な地域が含まれている。天然資源や鉱物資源、ダイヤモンドの産出などで知られている一方、ハバロフスク地方は機械・石油加工など重工業も盛ん。
- ・日系企業は極東全体で65社、沿海地方に38社。沿海地方の現地事務所については、日本人が駐在している現地事務所は23社で駐在員合計は37人。主に商社、物流、銀行、報道であるが、貿易会社も9社ほどある。
- ・沿海地方ではAPEC開催で失業率は改善しているが、人口流出は進んでいる。産業は運輸・建設・卸売業が中心であり、ウラジオストクやナホトカなど、貿易港を抱えている事が大きく影響している。
- ・貿易について。日本からロシアへの輸出は鉱物資源や燃料が主であり、輸入は食料品や機械金属部品、自動車部品が主。輸出入とも日本は第2位の相手先であり、重要なパートナーとの認識がある。
- ・沿海地方での最近のトピックスについて。経済特区として沿海地方で6カ所が指定された。午後から訪問すると聞いている極東連邦大学はルースキー島にあるが、ここも観光特区に指定されている。また、ウラジオストク近くのザルビノ港では大規模港としての整備が進められており、中国東北地方との連携も進められる予定。
- ・さらにウラジオストク港も「自由港」としてさらに解放される見通し。自由港は前述の経済特区同様に様々な特権が認められている。地域で指定された工業団地に工場を設立した企業に対しては各種の税金を免除するほか、会社登記や許認可手続きについても簡素化を認める。また、8日間に限ってであるが、ビザ無しで滞在することが可能。

（対象地域は沿海地方の南半分）



【沿海地方友好提携5周年記念フォーラム】

時間：14:00～15:00

会場：ルースキー島極東連邦大学 B棟

参加者：沿海地方政府側 150人 秋田側 52名

1. 両知事講演

開会挨拶に続き、佐竹知事及び沿海地方政府のゴルチャコフ副知事より記念講演。佐竹知事が秋田県の産業及び観光について講演。

ゴルチャコフ副知事からは沿海地方の経済特区について、また今後投資が望まれる事業についての説明が行われた。ゴルチャコフ副知事からは「沿海地方と秋田の関係はすでに大分前から発展してきているが、今のところ、科学・学術・教育・文化交流といった人道的性格に留まっている。投資協力や貿易分野にある潜在的可能性が、完全に実現しているとは言い難い。本フォーラムを土台に課題の解決を図り、相互の発展につなげたい」との発言があった。



2. 産業プレゼンテーション

沿海地方エージェンシーより事業紹介。概要は以下のとおり。

- ・現在沿海地方で進んでいる投資プロジェクトは **82** 件であり、そのうち **52** 件について追加融資を募集している。特にこれら追加融資案件は日本の中小企業の投資規模にも見合ったものと考えている。
- ・ウラジオの住宅事情改善のため、郊外の住宅団地開発プロジェクトが進んでいる。市街中心地への人口集中を緩和し、より快適な住居環境を提供しようとするもの。ウスリースク（ウラジオより北 **100** キロ）では **7,000** 人が居住できる **190 万㎡** のニュータウン建設を進めている。商業設備や学校なども併せて建設する予定で、**2024** 年の完成を目指している。
- ・環境事業では廃棄物リサイクル事業への投資が有望。廃棄物を木質ペレットや再生ポリ素材に再生するプラントを **2020** 年までに設ける予定。
- ・他にも農業、養豚、水産養殖、缶詰加工等、小規模投資でも有望な案件がある。既存の食品施設の近代化事業や乳製品生産プロジェクトなど様々なメニューを用意しているので、興味がおありの場合は問い合わせいただきたい。

続いて沿海地方輸出促進センターより事業紹介。概要は以下のとおり。

- ・本センターはロシア連邦経済発展プランに基づき **2013** 年に設立した新しい法人。先に沿海地方エージェンシーから話があった投資案件についてのサポートのほか、沿海地方に進出し製品を製造して輸出を目指す企業のために、対外市場調査なども行っている。沿海地方に進出した場合には、我々が販路拡大の手伝いを行うので、是非とも進出をお願いします。

続いて秋田商工会議所の三浦会頭より、「秋田県の産業とロシア沿海地方との経済交流に関する取組」について紹介。

最後に在ウラジオストック総領事館宮川次席の挨拶と会議総括により閉会。



フォーラム終了後には、両知事及び議長が地元テレビより取材を受けた。



【情報交換会（ラウンドテーブル）】

時 間：16:00～17:00

会 場：ルースキー島極東連邦大学 B棟

参加者：沿海地方政府側 20人 秋田側（若手経営者等） 45名

記念フォーラムを行ったラウンドテーブルに沿海地方政府実務担当者及び企業経営者、さらに秋田県側若手参加者が同席し、情報交換開始。初めに沿海地方側より企業概要及び事業の説明、連携可能性について説明がなされた。主な内容は以下のとおり。

○ノフトフスキー沿海地方商工会議所会頭

商工会議所は企業の経営環境改善などに協力しているほか、地方政府が進める経済事業への支援も行っている。外国企業の進出の支援も積極的に行っているため、安心してロシアにいらしてほしい。ロシア市場の情報が少ない等の問題があるのであれば、あらゆる支援を行う。

○ノグロード・ウラジオストク企業発展センター長

当センターはウラジオ市により設立され、行政機関と連携しながら中小企業の発展振興を支援している。ウラジオストクの各ビジネス協会への橋渡しや情報提供等にも協力できる。また、当センターは250以上の同業の集まりを持っており、1万人以上の登録がある。秋田と沿海地方での人的マッチングも可能と思う。

○イワニシェフ起業家推進協議会会長

当協会は企業の社会参画を目的とした24の団体で構成されている。我々も同様に人的マッチングが可能と思う。

※その後、参加各企業（7社程度）より事業説明。

続いて質疑応答。主な内容は以下のとおり（Rはロシア側、Jは秋田側発言）。

○日本の銀行が連携し、農作物の生産を行っているか。どのような農作物が有望と思われるか。（J）
→沿海地方はロシアの中では温度、湿度ともに比較的高いので、米作りも可能。大豆、トウモロコシなども生産されている。北海道の銀行との連携により、ソバや麦の生産も行われている。（R）

○秋田県のリンゴの沿海地方への輸出可能性はどの程度のものか。また、水産物はどうか。（R）
→秋田県もリンゴの産地であるが、問題は数量が確保できるか、価格面で折り合いつくかどうかだろう。また通年輸出可能であるか等、越えるべき課題は多いのではないかと。魚に関しては量が確保できるのはハタハタ。これも季節的な水産物。（J）

○ロシア極東への輸出が難しいと聞く。また港湾での貨物取扱でクレームはあるか。（J）
→特にクレームなどは無いし、輸出に関するハードルもないというのがロシア側の認識。問題があれば相互協力して解決を図りたい。（R）

○日本の日用品で需要の高いものは何か。（J）
→綿密な市場調査を行ったものではないが、化粧品や生理用品は需要が高い。日本製品は高品質であり、どれも人気は高い。（R）

○ソフトウェアの開発で提携できる可能性はあるか。プログラミングなどロシア人の人材レベルはどの程度か。（J）
→その分野での協力はロシア側でも注目している近く政府も強力なバックアップ制度を設けると聞いている。その際には是非とも連携したい。（R）

○木材生産が盛んと聞いているが、間伐材のリサイクル利用など廃棄物の有効利用への関心はどの程度か。（J）
→沿海地方だけで年間4億m³の木材が産出され、合板や単板に加工されている。当然廃棄物も多く、これらは木質ペレットなどに加工されている。廃棄物ではないが、林産副産物、たとえばクルミやワラビ、キノコ、白樺の樹液などの販路拡大にも力を注いでいる。秋田で興味がおありの方がいたら、是非とも声をかけてほしい。（R）

※会議終了時に沿海地方の企業である「オリガモルトランス」より企業紹介及び事業提案資料（農畜産分野共同プロジェクト、微細方解石・大理石の採掘、砂利採掘）の提供を受けたので、後日秋田商工会議所に情報提供した。



【秋田県・沿海地方友好提携5周年記念レセプション】

18時よりヒュンダイホテルにて記念レセプション。20時に終了。



3日目 平成27年7月14日(火) (自動車・港湾視察班)

(1) 行程

時間	内容	備考
8:30	ホテル出発	
10:00	スモートリ視察	自動車架装工場
11:40	プリムリング視察	サーキット場
13:30	昼食、オートサロン視察	自動車販売店舗
15:30	ウラジオストク商業港	
18:00	沿海地方知事主催夕食会	知事、議長等出席
	一般参加者は夕食	

(2) 内容

【スモートリ社視察】

1998年より、トラックや建設機械、スペアパーツの販売等を行っている。スズキや日野などの日本メーカーの自動車を取り扱っているほか、2007年からはトラック組立の工場が稼働している。従業員数は約460人。また、近郊のサーキット場プリムリングはモータースポーツを楽しめるだけでなく、本格的な自動車レースも行われている。同社工場等を訪問し、ロシア極東の自動車産業の事情や車輛の流通状況、またサーキットなど新たなスポーツの広がりなどについて説明を受けた。



- ・沿海地方では新車、重機の取扱高1位。営業エリアは極東だが、いずれロシア全域を考えている。
- ・日本から修理の専門家を招いたり、こちらから日本へ技術者を派遣し技術研修を実施している。
- ・日本のトラックは、横浜港から輸出され、ウラジオストク港へ運ばれてきている。日野自動車ではいずれ工場建設したいと言われている。メンテナンス部品も日本から輸入している。
- ・約800haのサーキット場内に、16のコースが建設されている。全域が完成した暁には、F1を誘致したい。ドイツの設計会社に依頼し、日本、イタリアから技術支援を受けている。
- ・将来構想として、ホテル、カジノを併設したい。



【オートサロン視察】

スモートリ社の系列レストラン「La Strada」にて昼食後、1階にあるスモートリ社の自動車販売店舗を視察した。



- ・現在、取扱っているメーカーは、マツダ、スズキ、スバル、VW、KIA、フォードの6社。
- ・現地の日本車のニーズは高く、特に日本で生産された車の人気が高いことから、新車よりも中古車の需要が高い。ただし、中古車の関税が引き上げられたことから新車の需要も高まっている。
- ・最近、韓国車の攻勢が激しいとのこと。

【ウラジオストク商業港視察】

FESCO社は極東地域最大の民間船舶会社であり、サハリン、カムチャッカ、マガダン等の極東地域、日本、韓国、中国、ベトナム等のアジア・太平洋諸国との間に定期航路を持っている。また、現在はウラジオストク商業港を所有・管理している。同港は中古自動車、コンテナを主に取り扱っている国際港であるだけでなく、シベリア鉄道と直結している。今回の視察では、ロシア極東の港湾取扱状況やウラジオストク向定期航路の運航状況などについて説明を受けた。



- ・ウラジオストク港は、極東一の取扱量の多い港である。日本へは木材、鉱石を輸出をしている。
- ・取扱の多い国は、中国、韓国、日本の順となっている。
- ・2014年の取扱数量は、輸出が多く港の取扱容量が65万TEUに対し58万TEUの実績。
- ・FESCO以外にも、フランス、韓国船社など6社が入港していることから、釜山経由の輸出入の可能性はある。



3日目 平成27年7月14日(火) (食品産業・住宅視察班)

(1) 行程

時間	内容	備考
8:45	ホテル出発	
9:00	ロゴスホーム視察	住宅会社
12:00	昼食	
13:15	A班：沿海製菓視察 B班：だんらん視察	沿海製菓～製菓メーカー
14:30	A班：だんらん視察 B班：沿海製菓視察	だんらん～日本食品販売店
16:00	フレッシュ25視察	大規模スーパーマーケット
18:00	夕食	

(2) 内容

【ロゴスホーム視察】

ロゴスホームは現地法人ホームテックロゴス・ルスを立ち上げ、現在はロシア人スタッフとの2人体制で現地での事業を進めている。また、2012年8月、ロゴスホームはロシアでの事業展開の拠点にしよとモデルルームをオープンした。同国では住宅がコンクリート構造体の状態で市場流通しているため、家の内装・設備を展示し、内装・設備工事での富裕層からの受注を得ている。

同社を訪問し、ロシア極東の住宅事情や施工状況について説明を受けるほか、日本企業がロシアに進出するにあたっての留意点などについて説明を受けた。



ホームテックログス・ルスの北岡氏よりモデルルームにて事業説明。主な内容は以下のとおり。

- ・ロシアの場合、一軒家よりもマンション購入が一般的だが、コンクリ直打ち状態で内装などを全く施していない状態で販売するのが主流。そのため完成時の最終価格が分からず、支払明細が明朗であるとは言いがたい状態。このためログス・ルスでは完成時の引き渡し価格を明示しており、顧客の安心感も高い。住宅の内装は日本製で、東京や北海道の港より取り寄せている。防音・防湿工場のため、壁は珪藻土を利用。



- ・水道は浄水装置備え付けのため飲用可能になっており、ロシア人の評価は予想以上に高い。キッチンも対面型にしており、調理中にコミュニケーションをあまりとらないロシアの人々に新たな生活スタイルを提案している。ロシアはサウナ文化であり湯に浸かることはないが、あえて日本式の浴槽スタイルを提案し、風呂での家族のコミュニケーションなどを訴えている。
- ・モデルルームを一通り拝見させてもらった後、質疑応答。

○ロシアでの事業展開で苦労した点は何か。

→当初は通関手続きでトラブルがあったが、コンスタントに日本の製品を輸入するようになってから問題は起きていない。現在の課題は職人の育成。ロシアの場合、左官や大工、電気設備などというように職人が専門分化されておらず、いわばゼネラリスト。何でもこなせるのはよいのだが、それぞれの能力にムラがあるため、非常に時間がかかる事がある。今後日本の職人を招き、講習などを行う予定。

○住宅ローンの金利はいくら程度か。

→ロシアの場合金融制度が未成熟。公的ローンなどが無いため、金利は非常に高い。ウラジオストクの場合、11%程度と聞いている。このため、現在ログス・ルスでは金融機関と連携し、より低利の金融商品を提供できないか検討している。

○暖房はどのような仕組みになっているのか。

→温水によるセントラルヒーティングである。

○浄水器は日本製なのか。

→ロシア製のものをを用いている。ロシアの水はカルシウム成分が多いので、日本の浄水器では故障してしまうことが分かったため、そのようにしている。ウォシュレットは日本製を用いているが、ノズルにカルシウムが凝着してしまうので、3ヶ月程度で交換している。

○購買層はどのレベルを想定しているのか。

→沿海地方の所得上位の9%、年間収入600万円以上のクラスを想定している。今後ハバロフスクやモスクワにも進出する予定であるが、ターゲットの変更はない。

続いて建築現場を視察。従来のロシア住宅購入の場合、こうした工事現場を見ながら商談を行うとのことで、日本と大きな違いがある。



最後にウラジオストク郊外のニュータウン整備状況について説明を受け訪問を終了。前日の沿海地方政府の説明どおりニュータウン整備の計画は複数あるものの、監督官庁の贈収賄などにより資金が枯渇し予定通りには進んでいないということで、投資リスクは高いという印象を受けた。



【沿海製菓視察】

「沿海製菓」はウラジオストクの老舗の製菓メーカーであり、工場と直営店舗が繋がっている。同社を訪れ、ロシア極東における現地食品事情について説明を受けた（工場見学は無し、店舗での説明のみ）。



マーケティング担当のマヒム部長とエレナ氏から説明がなされた。沿海製菓は1906年創業で、ウラジオストクだけでなく、ハバロフスクなど極東ロシア全域に販売網を持っている有名菓子メーカー。主な説明内容は以下のとおり。

- ・1906年に会社を設立以来、極東地域の菓子製造に携わってきた。ロシアは寒いため、甘いものに対する需要は高い。
- ・1932年には海藻入りのチョコを生産しているが、これは健康によいチョコを販売しようとの考えからの着想。生産当時は、海藻に含まれるヨウ素などミネラル成分を多く摂れる食品である事をアピールしていたが、チェルノブイリ事故の際にはヨウ素の摂取が放射線障害防止によいと噂が広まったことから、需要が高まったことがあった。

（チェルノブイリ原発事故発生当時、甲状腺がん防止のためにヨウ素剤を摂取させているシーンをテレビで見たロシア市民が多かったためらしい。海藻摂取によりヨウ素剤同様にヨードを摂取するのはまず無理）

- ・1950年には「モスクワ」「隕石」等のチョコの他、酒入りチョコも販売。現在は塩を含んだチョコや、鉄分強化のチョコなども販売しており、キャラメルなど他の菓子も含めるとラインナップは約350種。
- ・2006年には100周年イベントを盛大に祝った。その際にすべての製品についてGOST-R（ロシア国家標準規格）を取得し、食の安全安心の強化を図った。
- ・輸出事業にも積極的に取り組んでいる。従来は旧CIS諸国には輸出していたが、欧米諸国にも輸出を行っている（経済制裁の影響はあるようだが…）。また、中国にも販路を拡大している。説明を受けた後、質疑応答。
 - 日本への輸出などは行わないのか。
 - 昨年には日本の貿易会社と契約を交わしており、近々日本への輸出も行う予定。ただし、ネット販売が主なので、最初の取引量はそれほど大きくないかもしれない。
 - 原材料はウラジオストク港から輸入しているのか。
 - カカオ、アーモンドなどはウラジオ港より輸入している。乳製品などは国内生産。最後にチョコ及びビスケットなどを試食し視察終了。



【だんらん視察】

だんらんはウラジオストクの日本食品販売の草分け的存在である、エイラン社の小売店。多くの日本食品を取り扱っており、日本米なども販売されている。同社を訪問し、ロシア極東における日本食品事情やニーズについて説明を受けるほか、店舗を拝見しながら参加者それぞれで県産品の受入可能性等を考察した。



担当のマリア氏より説明がなされた。だんらんはロシア極東でも随一の日本食品取扱店舗。ウラジオストクに3店舗を構えているほか、ナホトカやカムチャッカにも支店を設けているとのこと。主な内容は以下のとおり。

- ・顧客の多くはロシア人であり、ウラジオ市民の日本食品への理解度は高いと思う。賞味期限は6ヶ月以上を目安に仕入れを行っているので、カップラーメンや飲料などが多い。
- ・韓国の製品も同様に仕入れているが、人気は日本製の方が高い。ただし、価格は2倍近くになってしまう。
- ・店舗内を確認していたところ、JA秋田おぼこが輸出したあきたこまちを確認できた。



360g、1kg、2kg、5kg の4種類のサイズで販売されており、価格はそれぞれ以下のとおり。
 (円換算は1ルーブル (1Rub) =2.2円)

360g=91Rub (200円) 1kg=309.5Rub (681円)
 2kg =618.5Rub (1,361円) 5kg=1,546Rub (3,401円)

参考まで、同様に販売されていた新潟産のコシヒカリは5kgで2,620Rub (5,764円)。今回輸出されたあきたこまちは古米であるため価格は抑えられていたため、他の日本産米と比較しても価格で有位制が発揮されていたものと思われる。

店舗には新潟県の産品紹介コーナーも設けられていたほか、醤油や味噌などの食品のほか、化粧品なども販売されていた。



【商業施設フレッシュ25視察】

ロシア沿海地方のスーパーマーケットフレッシュ25は、品揃えも豊富で現地の暮らしぶりを確認するのに格好の場所である。同スーパーマーケットを訪問し、店舗を拝見しながら参加者それぞれで県産品の受入可能性等を考察した。

日本のスーパーと同様に商品にあふれており、中でも乳製品及び海産物、畜肉加工品の多様さに参加者の多くも注目していた。米(短粒種)も販売されていたが、みな中国産で、日本産は確認できなかった。(当日のブリーフィング等はロシア側担当者の都合によりキャンセル。参加者各自がマーケット内で見学を行った。なお、写真撮影は不可)。



4日目 平成27年7月15日(水) (ハバロフスク班)

(1) 行程

時間	内容	備考
9:30	ホテル出発	
10:00	極東連邦大学医療センター視察	医療機関
11:00	極東連邦大学キャンパス視察 (議長等は大学幹部と会談)	学術機関
14:30	ザハール社視察	建設会社
16:30	商業施設視察	
21:00	ウラジオストク駅発、ハバロフスクへ移動	シベリア鉄道体験

(2) 内容

【極東連邦大学医療センター視察】

同センターは2013年7月に開所。ロシアでも有数の医療施設であり、神経科、神経外科、外傷科、整形外科、内部人工器官置換科、再建外科、耳鼻咽喉科、腎泌尿器科、外科、治療科、リハビリテーション科、介入心臓科、小児科、婦人科、救急蘇生科、集中治療科の特別治療施設11施設がある。東南アジア諸国などから高い技能を持つ外国人医師の受け入れを行っている。

現在まで多くの患者を受け入れているほか、今まで極東では対応出来なかった高度な治療を6,000件以上実施してきたとのこと。



(日本では大学病院等で普通に見かけるが) 極東の医療機関で最新のMRI及びCTスキャンを導入。開所からまだ3年程度であるが、医療スタッフの技能もめざましく向上しているそうである。リハビリテーション器具なども、欧米の最新のものを導入しているとのこと。



日本の大学病院では、インターンを教授が指導しながら医療技術を習得させるのが一般的であるが、同センターでは基本的に医学部を卒業したばかりの人材は受け入れず、診療所や病院などである程度の経験を積んだ医師や医療技術者を選抜してスタッフとして迎え入れているとのこと。

理由について聞いてみたところ、沿海地方だけでなくロシア全域では先進医療技術による治療への需要が非常に高く、欧米や日本のようにインターン制を導入して一人前の医師を育てている時間的余裕と資金的余裕がないそうである。このため、短期間の実習により技術習得ができるベテランを優先して集め、養成しているそうである。

続いて個室の入院施設を見学。リハビリテーションや術後回復のために長期間滞在する患者のため、ホテルのような部屋(225床)を用意し提供しているとのことであった。



最後に質疑応答。

○立派な入院施設を拝見させていただいたが、社会保険が適用されるのか。また、患者を多く受け入れ過ぎると財政負担が多くなるのか。

→適用される。なお、当センターの通院や入院については他の医療機関の紹介状が無いと受け入れできないので、任意入院を希望することはできないため、財政負担にある程度ブレーキをかける仕組みにはなっている。また、ロシアの場合、保険外診療に当たる部分は全額負担であるので、保険外診療に伴う入院は全額患者負担となる。

○医療スタッフはどのくらいいるのか。

→医師は約200人、看護スタッフや療法士等を含めると700人。

○日本では医師不足が問題となっているが、ロシア極東地域ではそのような問題は無いのか。

→ロシアでも医師不足は問題だが、人数より最新医療技術の習得がより大きな課題。

○ウラジオストクにも医科大学はあるのか。

→ウラジオストクにも医科大学はある。卒業後は地域の医療機関に配属され、経験を積んだ後同センターのような高度医療機関で技術を習得する。

【極東連邦大学視察】

極東連邦大学はロシア連邦ウラジオストクにあるロシア極東地域最大の総合大学。教職員の数は約3,300人、学生数は約43,000人。学部は地域・国際研究学部、経済・経営学部、芸術・文化・スポーツ学部、工学部、法学部等9学部。

寮、講義棟、学生センター、競技場、体育館、プール、テニスコート等が揃えられ、キャンパスの総面積は55ha。さらに市民が楽しめるようにウォーターフロントを整備しており、ビーチやヨットクラブ、食堂、カフェ、レストラン、アートセンター等が整備されており、これらを含めた総面積は140ヘクタール。



中央ホールから案内がスタート、キャンパスのミニチュアを用いて大学の概要について説明を受けた。



続



い

続いて運動施設（体育館、プール、トレーニングルーム）を視察、最後に隣接する後援を確認し視察終了。



【ザハール社視察】

ザハール社はウラジオストクの有力コンクリートメーカー。同社はソ連崩壊後、道路建設機械の輸入販売を皮切りに、コンクリート製舗装ブロックの製造販売にいち早く乗り出した。特に沿海地方の道路建設局とは密接な関係があり、特に金角湾に設けられたつり橋橋脚の建設にも携わった。

また、同社は北海道の會澤高圧コンクリートと共同で事業展開をした経緯があり、その際に得たノウハウ導入により、現在も大規模プロジェクトに欠かせない大型プレキャスト製品等の設計製造を得意としている。

同社を訪問し、ロシア極東の建設インフラ事業の実情や今後の事業展開について説明を受けた。



施設は相当に古く、金角湾の橋脚を製造したとは思えない状態であるが、極東随一のコンクリートメーカーであるとの話で沿海地方政府からも同様の情報を得ていたほか、社長コティク氏からも同様の説明を受けた。

ウラジオストクは急勾配の場所が多く、コンクリによる擁壁の需要は相当高いとのこと。実際受注も多く、アルトゥーム市北部でも現在トンネル工事を行っているとのこと。そこでは日本のプラント（會沢高圧コンクリート製造）のそれを用いているそうである。

プーチン大統領の極東開発政策が打ち出されてからは営業利益が増しているようで、サハリン及びナホトカにもコンクリート工場を持っているが、どちらも黒字営業とのこと。

現在手がけている事業の中でユニークなものとして、ハバロフスクまで続くハイウェイの下に野生動物が行き来できるトンネルを設ける工事を行っているとのこと。ハイウェイの両面は野営動物との衝突事故防止のために柵を張っている区間が多いが、これが野生動物の自由な行き来を阻む結果にもなっており、繁殖活動の妨げにもなっているとのこと。沿海地方及びハバロフスク地方両政府より工事案件を獲得し、100以上のトンネルを掘る計画とのこと、現在ウラジオ側から着手し始めているそうである。

ザハール社訪問まで先進施設を多く見てきた参加者には、また別の面のロシアを認識できたようであり、「うまくロシアのパートナーを見つければ最新鋭の施設や巨額の投資を行わなくとも、ビジネスチャンスがあるのではないか」「日本で陳腐化した技術でも十分対抗できるし、コストパフォーマンスをより高くできると思う」といった声が聞かれた。

ザハール社訪問後ウラジオストク市に戻り、商業施設見学の後夕食。21:00にシベリア鉄道「オケアン号」に乗り、ハバロフスクに移動。

4日目 平成27年7月15日(水) (イルクーツク班)

(1) 行程

時間	内容	備考
11:10	ウラジオストク空港発	
13:55	イルクーツク空港着	
15:00	バイカル湖近郊視察	
	タリツイ木造建築博物館、バイカル湖博物館、魚市場	
18:00	夕食	



【タリツイ木造建築博物館】

18-19世紀のコサック、ブリヤートの建物を移築した博物館で、学校や役場、木造のロシア正教の教会が移築されている。

バイカル湖は観光に力を入れており、中国人、韓国人の観光客が多いとのこと。日本人は少ないので是非来て欲しいとのこと。

【バイカル湖博物館】

バイカル湖は、長さ700km、幅30~50km、最大水深1,700mの世界でも最大級の湖。

生息する生物の多様性があり、淡水に生息する唯一のアザラシなどもおり、博物館でも展示。ユーラシアプレートとアムールプレートの境界に当たる地溝の陥没部に当たることから現在でも拡張している湖であり、地殻変動のため地震も多いとのこと。

夕食はバイカル湖周辺にてバイカル湖の魚を主体にした食事。その後ホテルへ移動。

5日目 平成27年7月16日(木) (ハバロフスク班)

(1) 行程

時間	内容	備考
8:15	ハバロフスク駅到着、ホテルに移動	
10:00	ホテル発	
11:00	エネルギー・インパルス社視察(アバンギャルド工業団地)	野菜栽培工場
12:00	昼食	
13:30	ハバロフスク地方議会副議長会談	ハバロフスク地方迎賓館
15:30	バルチカ訪問	ビール工場
18:00	チェックイン、夕食	

(2) 内容

【エネルギー・インパルス社視察】

エネルギー・インパルス社は、ハバロフスク市のアバンギャルド工業団地に、日本のプラントメーカー日揮が出資し建設を進めている野菜栽培工場。ハバロフスク地方では日本企業が出資する初めての事業とのこと。

事業を担当するのは日ロ合弁企業「JGC エバーグリーン」で、資本金は約4億5千万ルーブル。このうち約80%を日揮、約5%を「道銀どさんこ3号ファンド」(北海道銀行が北海道ベンチャーキャピタル株式会社と共同で設立)、15%をハバロフスクにある有限責任会社「エネルギー・インパルス」(EI)が保有。



はじめに事務所にて説明を受けた。JGCによれば、温室で栽培される野菜は、極東向けに輸出されている日本の野菜より安くなり、品質は中国の野菜より遥かに優れたものになるとのこと。商標登録を行ってブランド化を図るとのことで、今冬には最初の収穫が予定されているそうである。

現在は、金属製の骨組みを持つガラス張りの温室(2ha)を建設中で、実際の栽培はこれからとのこと。登記も栽培可能となるようにガスボイラーを設置し、年内竣工を目指しているそうである。ロシア極東地域は天然ガスなどエネルギー単価が安いことから、電力は自家発電で賄い、公的インフラからの電力供給は補助的な扱いとするとのこと(時々停電が起こること)。また、暖房装置としては自家発電で発生する廃熱を利用するコージェネレーションとする予定。



続いて施設見学。建設される温室では、生産物の約半分の栽培用に補助照明を使用する見込み。ただし、補助照明を使うと、未使用の場合の15～20倍の電力(1haにつき1500～2000kW)が必要となるので、天然ガスによる発電のほか、風力発電も検討しているとのことであった。

【ハバロフスク地方議会副議長会談】

時 間：13:30～15:00

会 場：ハバロフスク地方迎賓館

参加者：ハバロフスク側 マドヴィシエフ副議長

モフチャン地方自治委員会委員長

プドフキナ予算税制委員会委員長

ミナイエフ経済商工委員会委員長

シュティノバ社会保険・保健衛生委員会委員長

メシュロワ科学・教育文化スポーツ委員会委員長

グラドキフ建設・エネルギー委員会委員長

秋田側

渋谷県議会議長、佐藤県議会議員、相場企画振興部長、小野崎議会事務局次長、須磨国際課班長、伊藤国際課専門員、糸屋商業貿易課副主幹

○はじめにマドヴィシエフ副議長より、ハバロフスク地方について紹介がなされた。主な内容は以下のとおり。

- ・ハバロフスクは行政区の面積が79万㎡であり、日本よりも広い面積を所管している。シベリア鉄道に乗ってハバロフスクまでお越しいただいたそうなので、大河アムール川もご覧になったと思う。アムール川は全長4,400mの大河であるが、当該行政区には4,200本もの川が流れている。
- ・第2シベリア鉄道と呼ばれるバム鉄道の終点もハバロフスクにある。シベリア鉄道及びバム鉄道の両横断鉄道の貨物輸送量が増加していることから、中央政府では貨物車両の増加を計画している。計画通りにいけば、現在よりも6,600万トン貨物輸送量が増加することになり、ハバロフスク地方の経済にも大きなプラスになる。
- ・ハバロフスク地方は機械産業、木材産業、石油化学産業が盛ん。天然ガスや石油も周辺地域にパイプラインで移出及び輸出しており、年間総量は3,000万トン。
- ・日本は信用できるパートナーであると我々は認識している。エネルギーインパルスを視察されたと聞いているが、同様の成功例をこれからともに生み出していければと思う。
- ・次に統治機構について話させていただく。ロシアは3権分立が確立されており、地方政府もその例を漏れない。本議会は2014年9月14日に選挙で選出されており、小選挙区で18人、比例選挙区で18人が選ばれている。議会最大勢力はプーチン大統領が所属している「統一ロシア」で、所属議員は30名。
- ・議会で州法の制定のほか、行政府が決定した計画をチェックする事が主な仕事。1人の議員は2つの委員会に入ることとなっているほか、連邦政府主催の円卓会議への出席もあるほか、議員活動として選挙区集会に出席するなど、非常に忙しい。
- ・地方政府には233の市町村がある(9市23町191村)。それぞれに議会があるが、これは日本と同様と思う。7/8～10には地方政府と市町村合同の連盟集会が開催されたばかりである。

○続いて渋谷議長より説明。主な内容は以下のとおり。

- ・秋田県は極東ロシアに近く、長年交流を続けてきた経緯がある。当県の議会は「建設、福祉環境等6委員会を持っている。当県は人口減少が進んでおり、このため議員定数の減少も図られるようになってきている。4年に1度定員の見直しを行っており、現在43名となっており40名への削減も検討中。最大会派は自民党で27人。
- ・今回は知事、県議会議員、秋田県の若手経営者の総勢50人あまりで極東ロシア及びシベリアを訪問させていただいている。若い経営者の視点で、ロシアとのビジネスチャンスを発掘してもらえればと考えている。



○続いて質疑応答がなされた。主な内容は以下のとおり。(Rはロシア側、Jは秋田側発言)

- ・秋田県議会の女性議員の数はどのくらいか。ちなみにハバロフスク地方政府議会は10名である。
→秋田県議会は定員43名中6名。女性の声が県政に生かされるようにと考えているが、なかなか進まない。(J)
- ・最大会派は自民党とのことであるが、これは全国の地方議会でも同様なか。(R)
→県議会でいうと、沖縄県及び大阪府、三重県以外は自民党が最大会派を形成している。(J)
- ・秋田県では「子ども議会」のような取り組みを通じ、子どもたちに政治への関心を持ってもらう取り組みを行っているが、ロシアではどうか。(J)
→ロシア地方政府では「青年議会」というものがあり、18歳から35歳までの青年が参加し、議員と意見交換を行う。政治への啓蒙を目的とする子ども議会とは性質が違い、議員選出だけではなかなか届かない若者の声を議会に届ける機能を持っている。(R)
- ・秋田県では「あなたの町で県議会」と題し、出張議会のような形で地元の人々の意見を聞く活動を行っているが、ロシアにも同様の制度はあるものか。(J)
→地域毎に公聴会を開催している。似たような仕組みと思う。(R)

最後に記念品の交換と撮影を行い、会談終了。その後、地元テレビが議長に取材を行った。



【バルチカビール視察】

バルチカビールは2003年4月11日に操業開始した、ロシアで最も有名なビールメーカー。バルチカが経営している主な工場はロシア全土で5箇所あり、バルチカ・ハバロフスクはバルチカブランドのうち数種類を生産しており、その中には最も人気が高い“DV”ビールを生産している。

このビール工場を開設して以来、市場占有率が7倍向上、生産額および社員数が3倍増加し、昨年度の企業全体での年間生産量は1億6千万リットルに達したとのこと。



外観は近代的。衛生面及び温度管理を考慮し、ビール類の製造プラントは外部と完全に隔離されている構造となっている。発酵・醸造プラントには発酵槽が4つ（おそらくイタリア製）。



各ビールのアルコール度数は3度～7度とバラエティーは多い。ここで生産されるビールも GOST-R 基準を満たしており、外国へも輸出しているとのこと。また、最近の健康志向を反映し、ノンアルコールビールの製造も行っているそうである。



ビールはビン、カン及びPETボトルに封入し出荷。PETボトルにビールが入っているのは日本の感覚では意外であるが、ロシアでは最も普及しているそうである。

※瓶リサイクルの体制が整っていない可能性があるように思われた。
最後に記念グラスをいただき終了。

5日目 平成27年7月16日（木）（イルクーツク班）

(1) 行程

時間	内容	備考
11:40	スーパーマーケット スラータ 視察	
15:00	情報交換会	
18:00	レセプション	

(2) 内容

【スラータ視察】

スラータの営業部担当者の案内でスーパー内を視察。

EUなどからの経済制裁により、ロシア国内の食料不足が伝えられていたが、中国、北朝鮮、エジプトなどから野菜、果実を仕入れており品揃えは豊富。プーチン大統領がこの機に国内の農業を奨励しているとのこと。ただし価格はロシア産のジャガイモよりも、中国産のジャガイモが半値程度。



【イルクーツク情報交換会】

時 間：15:00～16:30

会 場：コートヤードバイマリオット

参加者：イルクーツク州副知事 モフカモヴァ・エカテリナ

州経済促進部投資促進局長 ボルゴロヴ・パベル

州農業部経済局長 ツルセヴァ・アンナ

○イルクーツク州副知事 モフカモヴァ・エカテリナ

- ・イルクーツクと日本との貿易割合は20%程度。
- ・ロシアの法律に基づいて、日本の希望に応じた共同プロジェクトを実施したい。

○州経済促進部投資促進局長 ボルゴロヴ・パベル

- ・イルクーツク州は、775千km²でロシア国土の4.7%で人口241万人。
- ・エネルギー産業も盛んで、天然資源はロシアで第2位の生産量があり、エネルギー費が安い。
- ・林業加工ではロシアで1位の生産量。
- ・州の優先産業開発プログラムとして、化学、林業、製薬、機械加工など8分野を定め集中投資をする。
- ・バイカル湖を中心とした観光資源を活かした観光産業を振興していく。そのため、観光特区計画定め、国が22億ルーブル、民間から62億ルーブルの出資を得る予定。
- ・日本の投資を是非待っている。
- ・イルクーツクには、日本との合弁会社の「T.M. バイカル」がある。
- ※T. M. バイカルは、(株)田島木材・三井物産(株)・イルクーツクレスプロムとの合弁会社。シベリア産の木材を現地で加工し、日本に輸出している。
- ・イルクーツクから日本への輸出の60%は石油である。
- ・観光客の誘客のため、日本との直通便を検討している。

○州農業部経済局長 ツルセヴァ・アンナ

- ・州の農業生産高は540億ルーブルで、シベリア地方の10%を占めている。
- ・240万haの農地のうち、牧草地は53%、穀物の生産地は47%となっている。穀物は主に小麦で、ジャガイモなどを生産。
- ・家畜では、牛を中心にぶた、にわとり、ひつじを生産し、年間15万トンの生産高。ロシア全土だ

- けでなく、モンゴル、中国へはバター、アイスクリームを輸出している。
- ・今後、農業技術の企業を作り、気候が厳しい中でも温室栽培で生産するための技術、野菜などを研究していくことにしている。日本の技術的なサポートを期待している。
- ちなみに、この温室ではキュウリ、トマト、緑の葉物を栽培予定とのこと。

6日目 平成27年7月17日(金) (ハバロフスク班)

(1) 行程

時間	内容	備考
8:30	ホテル発	
10:00	ペレヤスラフスキー視察	乳製品製造工場
13:00	昼食	
15:00	情報交換会	
18:00	レセプション	パルスホテル

(2) 内容

【ペレヤスラフスキー視察】

同社はハバロフスク地方で最大の乳製品製造会社。従業員500名、牛乳、デザート、バターなど1日150tの商品を製造している。市内の70%、ハバロフスク地方では50%のシェアを誇るとのこと。80種類の乳製品を製造しており、食の安全をアピールするため最近ISO22000(乳製品の衛生基準規格)を取得したとのこと。

敷地は6haで、井戸やボイラーを完備しインフラは自給できる体制をとっている。ロシアでは未だに停電などが発生することがよくあり、その際公的インフラにすべてを依存していると工場全体が停止してしまうため、リスク回避のためにそのようなしているとのこと。

工場は24時間操業で、①牛乳の搬入受入・殺菌、②検査、③乳製品加工の3ブロックに分かれている。工場はコンピュータで監視されており、ネズミや虫の侵入を防ぐよう密閉構造となっていると説明を受けた。



最初に搬入された牛乳の滅菌を確認(機械はイタリア製かデンマーク製)。

見学者には帽子や白衣の着用を求めるなど、衛生基準に留意している感があったが、作業員は室外から土足で入室するなど、疑問に思える点も見られた。衛生検査も行われていたが、窓を開放した状態でPh検査や細菌検査を行っているなど、同様に品質管理についても疑問が残った。



続いてチーズやヨーグルト製造工程を確認。機械はイタリア製で、作業員は常駐で機械の運行状況を管理していた。また、次の工程への移動途中に同社の歴史を記載したコーナーがあり、ここでも説明を受けた。



続いてチーズの袋詰め工程を確認。すべて手作業で行われており、技術導入の可能性が感じられた。ただし、このプラントに入室する前に通る殺菌装置には消毒液も何もなく、やはり衛生観念に問題があるように思われた（参加した事業者の多くも同意見）。



一方で最後に行った試食での評価は一概に高かった。最後に質疑応答。

○作業衣の洗濯もすべて工場で行っているのか。また、足ふきマットなども同様か。

→工場で専門の職員が洗濯を行っている。足ふきマットも同様に洗浄し、消毒している。

○洗濯の外注はできないのか。

→市街地まで距離があるほか、冬季の吹雪などによる交通麻痺のリスクを考えると、クリーニング業者への外注は難しい。

【ノバロフスク情報交換会】

時 間：15:00～17:45

会 場：パルスホテル1階

参加者：ノバロフスク地方政府・地元企業側 10人 秋田側 15名

1. 議長講演

はじめに渋谷議長より秋田県の産業及び観光について説明。



講演終了後、情報交換会までコーヒーブレイク。この間にも、日露の経営者同士で情報交換を行っていた。確認できた内容としては以下のとおり。

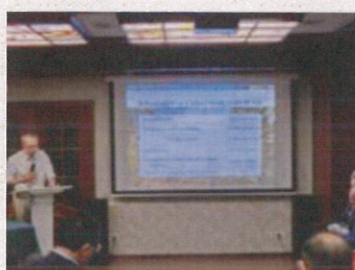
○昭和興業とハバロフスクの環境保全業者との、プラスチック改修事業に関する日本での環境基準に関する情報交換

○秋田県森林組合連合会と地元林業業者との、ハバロフスクにある木材資源の種類について 等



2. 情報交換会

はじめにディヤノフ国際協力・地域間連携大臣より、続いて在ウラジオストク日本総領事館の山本総領事より挨拶が述べられた後、チェブールニフ投資・土地財産政策大臣からハバロフスクへの投資優遇制度について、続いてシュジューモフ木材産業委員会副委員長より、ハバロフスク地方の林業についてプレゼンにて紹介が行われた。



最後に質疑応答（挨拶及びプレゼンに時間を要し、質疑応答の時間は10分程度しかとれなかった）。

○ハバロフスクの林業者の待遇はどうか。日本の場合重労働で敬遠されるきらいがある。

→ロシアでも林業者はなかなかの重労働であるが、賃金は普通の事務職の1.5倍は支払われている他、手当も多くつけている。重労働で敬遠されているということはないが、ハバロフスク地方自体の人口減少が進んでいることから、そもそも労働力のパイが少なくどの産業も人材確保が大変である。

○製材技術はどの程度発展しているものか。

→ハバロフスク地方ではワニノ港周辺に大規模工場がある（アルカイク社?）。家具用パネルや集成材も生産しており、一部は中国にも輸出されている。沿海地方には日本の商社と合弁で設立した製材工場もあり、日本への輸出も行っているはず（住友商事のプラストンか?）。

技術は低くないものと自負している。

【秋田県・ハバロフスク地方政府の記念レセプション】

18時よりパルスホテル2階にて記念レセプション。20時にお開き。



6日目 平成27年7月17日(金) (イルクーツク班)

(1) 行程

時間	内容	備考
10:30	イルクーツク州知事会談	
13:00	大規模農場：非公開型株式会社「ボリシェランスコエ」	
15:30	養鶏場「ペロレチェンスコエ」	
19:00	夕食	

(2) 内容

【イルクーツク州知事会談】

時間：10:30～11:10

会場：イルクーツク地方行政府

参加者：イルクーツク州知事代行 セルゲイ・エロシエンコ、副知事 モフカモヴァ・エカテリナ

- ・イルクーツクと日本との関係は深く長い歴史がある。
- ・キーマンは森前総理で昔から面識があり、日本との仲介をお願いしたのも森前総理。その縁もあって、金沢市、石川県との交流がある。
- ・日本との合弁企業も数社あるが、今後、パートナーとして付き合いしていきたい。
- ・日本企業が来るのであれば、全面的にサポートをしていきたい。
- ・イルクーツクは天然ガスの生産が盛んであり、パイプラインをつくる予定がある。
- ・木材生産量はロシア国内で一番多く、木材加工でもリーダー的な役割を担っている。
- ・バイカル湖周辺を観光ゾーンに指定し、集中的にホテルなどのインフラ整備をしていく。また、国際空港も作る予定である。
- ・イルクーツクの特徴は、教育、医療水準が高いことである。



【大規模農場：非公開型株式会社「ボリシェレンスコエ」視察】

- ・ 280年前のホルホーズ時代からこの地で農業、家畜をしており、70年前に株式会社化した。
- ・ 全体の面積は5,000haで、乳牛800頭を飼育し年間6,500tの牛乳を生産している。
- ・ 村には900人の住人がおり、農場には240人が勤めている。何らかの形で住民は農業に関わっている。
- ・ 最近のプーチン大統領の国内での農業振興施策により、生産量は高まっており、利益も上がっている。



【養鶏場「バロレチェンスコエ」視察】

- ・ 170万羽の鶏を飼育している。
- ・ 鶏の糞を堆肥としても販売している。日本にも輸出したいと言われ、サンプル品の提供を受ける。全農の柳田さんへ渡す。→あまり栄養度は高くはないとのこと
- ・ 最近、卵を粉末化して、マヨネーズの原材料としてロシア全土に展開している。日本のマヨネーズにも使ってみないかと言われるが、日本ではナショナルブランドのメーカーが新鮮な生卵を使っていることから需要はないと伝える。



7日目 平成27年7月18日(土)

(1) 行程

時間	内容	備考
8:00	イルクーツク班、ハバロフスク班に合流	
9:30	ホテル発	
10:00	ハバロフスク地方知事会談 (一般団員は市内視察)	ハバロフスク地方行政府
12:00	昼食	
15:00	市内商業施設視察等	
18:00	夕食、解団式	

(2) 内容

【ハバロフスク地方知事会談】

時間：10:00～11:00

会場：ハバロフスク地方行政府

出席者：佐竹知事、渋谷議長ほか県議

ハバロフスク地方知事 ヴァチェスラフ・シュポルトほか

- ・ハバロフスクは日本の各自治体との交流が盛んである。貿易も、中国、韓国について3位。主に石炭、木材、魚を輸出している。
- ・ロシアと日本との交流には、地域間の関係維持が大切。
- ・ハバロフスクには、日本企業が35社ある。日揮との共同PJを進め、資源開発をしている。
- ・外港経済特区構想もあることから、ハバロフスク地方と秋田県とで情報交換のメカニズムをつくることを提案したい。ビジネス環境の決定スピードが速まることが期待される。
- ・そして、文化交流を前提に観光、人的交流を続けていくことが相互の発展に寄与すると考える。
- ・ハバロフスクへ企業が進出していただければ、全面的にサポートする。



【ハバロフスク市内視察】

- 当日午前中は各自自由行動。担当も団員の一部と市場などを視察。ホテル近郊の露店市場では肉や野菜、蜂蜜等が販売されていた。胎動していた国際教養大学の竹村教授によると、近郊の農家やダーチャ(郊外別荘兼菜園)を持つ市民が売りに来ているのだらうと話していた。
- 通訳に聞いたところ、中国製野菜が大量に流入しているが安全面で疑問に感じている市民も多いそうで、できるだけ地元の産品を手に入れるように気を遣っているとのこと。価格は中国産の食品に比べると若干高めとのこと。
- ホテルそばのアムールスキー公園では、偶然にも日本文化イベントが行われていた。ハバロフスク市民の親日感情は相当高い模様。



○午後は郊外の大型ショッピングセンター「サンベリ」を見学（写真撮影不可）。日本のスーパーと同様に商品にあふれており、日本のスーパーと比べても遜色はなかった。

【夕食（解団式）】

18時よりレストラン「ルースキー」にて解団式。

8日目 平成27年7月20日（日）

(1) 行程

時間	内容	備考
9:00	ホテル発	
9:30	日本人墓地参拝	
10:30	ハバロフスク空港着	
11:50	ハバロフスク空港発、成田空港へ（S7 567）	
13:35	成田空港到着、羽田空港へ移動	
17:40	羽田空港発（NH407）	
18:45	秋田空港着、解散	

(2) 内容

【日本人墓地参拝】

シベリア抑留で無くなった日本人を弔っている墓地を一同参拝。



※その後一同ハバロフスク空港に到着。日本へ旅立ち、午後7時過ぎに秋田空港に到着、ミッション終了。

6. ミッション派遣の成果等

○総括

初めての試みであり、また県内産業界からの若手参加者が当初計画より少ない状況での実施であったが、現地での情報交換会等の際に商談等を求められる参加者も複数社あり、今後の事業へ今回の経験・人脈等を活かして行って頂きたい。

ウラジオストク訪問時に、ウラジオストク及びその周辺の港湾地域がロシア国内で「自由港」として指定されたこともあり、NHKほか現地報道等でも本県訪問が取り上げられた。

企業等訪問の際には、より少ない人数のグループが対応者の説明を聴くには適当ではないかと感じ、今後の事業検討の際にはより事業効果のあがる参加者人数の検討を行ってまいりたい。

訪問期間中の各団員の異業種間の交流も行われ、今後の展開を期待したい。

今回の参加者からのアンケート調査、事後報告会での意見なども参考にしながら今後の事業内容を検討してまいりたい。

○民間参加者の評価

今回の事業に参加した民間のメンバーからは、以下のような評価を得ている。

- ・ロシアでのビジネス展開を考えていたが、実際に見て、触れることにより、具体的なビジネスプランを考える機会となった。
- ・直接自分のビジネスには繋がらないように感じたが、ロシアに来て、見聞が広まり、これからのビジネスを進める上でヒントが得られた。
- ・全く違う異業種の人間とこのツアーで知り合え、交流が深まったことにより、業種間の横ぐしが図られた。
- ・これから、定期的に参加したメンバーと連絡を取り合い、たまに飲みながら異業種間交流を進めて行きたい。
- ・自分以外にも多くの会社の人間に参加して欲しいと感じた。来年も是非このツアーを企画して欲しい。

一方で、以下のように訪問行程が厳しく、自由に考察する時間がほしいなどの意見もあった。

- ・日程が大変タイトで、1日くらいは休日を設けて、ツアーの振り返りや自分の仕事をする時間が欲しかった。

訪口青年ビジネスチャレンジ事業事前研修会

次 第

日時：平成27年6月16日（火）13:30～15:00

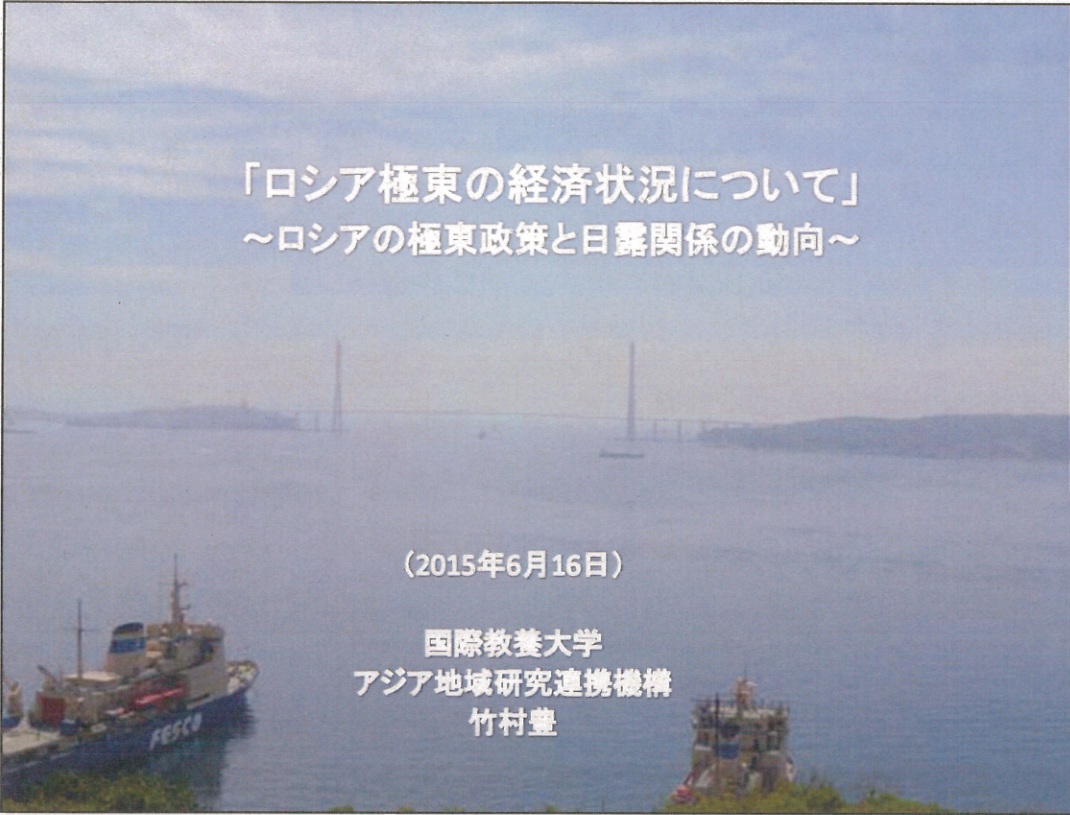
会場：秋田県庁第二庁舎8階「大会議室」

- 1 あいさつ 秋田県企画振興部 国際課長 山脇 幸美

- 2 ロシア極東の経済状況について 13:35～14:35（60分）
国際教養大学アジア地域研究連携機構 特任教授 竹村 豊

- 3 訪問の概要について 14:35～14:45（10分）
秋田県企画振興部国際課 副主幹兼班長 須磨 武

- 4 ロシア極東への渡航に係る諸連絡について 14:45～15:00（15分）
JTB 東北法人営業秋田支店営業一課 課長 柏原 裕之



「ロシア極東の経済状況について」
～ロシアの極東政策と日露関係の動向～

(2015年6月16日)

国際教養大学
アジア地域研究連携機構
竹村豊

Agenda

- 経済制裁下のロシア経済全般・・・Slide 3-8
- 日ロ二国間経済関係(貿易・投資)・・・Slide 9-16
- ロシアの極東地域発展計画・・・Slide 17-22
 - ー 極東発展省と極東先行発展領域法
 - ー 暫定リストから領域(PDA)選定へ
- 極東連邦管区の概況、貿易実態、ビジネス動向
・・・Slide 23-28
- 2014年・日ロ関係重要事項・・・Slide 29
- 秋田県の貿易・地域別輸出入動向・・・Slide 30-31
- 秋田と沿海地方(ロシア)との交流史・・・Slide 32
- 秋田県経済指標他・・・Slide 33-38

日中露韓アセアン米の主要経済指標比較 (2013)

()内の数字: 2012年比

項目	日本	中国	ロシア連邦	韓国	ASEAN (10)	米国
実質GDP成長率 (%)	1.6 (+0.2)	7.7(+/-0)	1.3 (-2.1)	3.0 (+0.7)	5.1	2.2
名目GDP総額 (百万米ドル)人口	4,901,530 (1.273億)	9,469,120 (13.607億)	2,096,774 (1.435億)	1,304,300 (0.502億)	4,486,364 (6.120億)	16,768,100 (3.161億)
一人当りの名目GDP(米ドル)	38,491 (-8,039) *	6,959 (+765)	14,819 (+803)	24,329 (+1,739)	3,844	45,934
貿易収支(百万米ドル)	-89,909	359,890	181,939	80,569	N.A.	-476,392
外貨準備高(百万米ドル)	1,237,220	3,849,363	469,603	341,650	N.A.	119,719
対外債務残高(百万米ドル)	2,853,006	863,170	728,864	416,112	N.A.	26,541,267
輸出額(百万米ドル)	719,200 (-82,100)*	2,209,000 (+160)	527,266 (+2,568)	559,649 (+548)	1,097,600 (2010)	1,592,784
輸入額(百万米ドル)	838,900 (-49,700)*	1,949,990 (+131,580)	314,967 (+2,210)	515,561 (-8,852)	1,023,300 (2010)	2,294,453

注*: 対ドル為替レートが期中平均¥79.79/\$から¥97.60/\$に下落したため。

出所: 各国所管機関の統計に基づきジェトロが作成したデータより抜粋し作成。

ウクライナ問題(1)

- 2014年2月親ロシアのヤヌコビッチ政権の崩壊
- ロシア系武装組織の圧力を背景にクリミア・セバストポリが独立宣言(3月11日)に続いて住民投票(3月16日)を実施・・・独立支持95%
- ロシアは「クリミア共和国」の独立を承認(3月17日)翌18日、クレムリンに於いてクリミア共和国との二国間協定によりクリミアをロシア連邦構成主体として編入。
(セバストポリ: 連邦市として編入)



欧米による制裁

特定個人の渡航禁止・査証発給制限、特定個人・企業・団体の米国・欧州内の資産凍結、大手銀行・石油会社・防衛産業への金融制裁、技術・設備提供禁止

ウクライナ問題(2)

- ウクライナ東部・ドネツク州、ルガンスク州に於ける州庁舎占拠と独立の動き(親ロシア派武装勢力)



マレーシア航空機撃墜事件

(ウクライナ東部での軍事衝突激化と制裁強化)

- ロシアによる制裁国(日本は除外)への対抗措置の実施(8月6日):米国、EU、カナダ、オーストラリアから肉、魚、野菜・果物、乳製品等の輸入制限
- 日本の制裁:査証発給緩和協議の凍結、ロシア政府関係者・特定個人の査証発給停止や個人・団体の資産凍結と対象の拡大(親口派勢力も)。ロシア5金融機関の日本での証券発行禁止やEBRDを通じた新規融資の停止等の金融制裁。



ロシアの中国との経済関係強化

露中経済関係の拡大

- ロシアの歴史的習性:西が手詰まりになると東へ!
- 欧州向資源エネルギー輸出減の代替としての中国
 - ・ロシア対外貿易の地域別比率:欧州(約49%)、アジア太平洋地域(27%)、CIS(12%)、その他(12%)→アジア太平洋地域では、(1)中国:40%、(2)日本:14%、(3)米国:13%、(4)韓国:12% 他
- 中国とのエネルギー契約: 2020年までにロシアの中国向天然ガス供給量は全消費量の17%に拡大する見込み;
 - 1)ロシア・ガスプロムと中国・CNPC:ヤクーチヤからハバロフスク経由ウラジオストクまで新ガスパイプライン(Power of Siberia)を建設し2017年から30年間380億立米の天然ガスを供給。(2014年5月)
 - 2)APECサミットの場でロ中首脳が基本合意:西シベリア・アルタイから新疆ウイグル自治区にパイプラインで300億立米の天然ガスを供給する計画。(2014年11月)
- ロ中の主な経済協力:東シベリア・バンコール油田の10%権益を中国が取得、モスクワ・カザンの高速鉄道建設計画への中国参加、中口の貿易額倍増計画2013年:890億ドル→2015年:1000億ドル→2020年:2000億ドル
ロ中の中央銀行が金融市場の緊急時に「スワップ協定」(1500億元)

ロシアの経済指標(2014年速報値)

- ロシアGDP成長率:0.6% (−0.7%)
- 乗用車生産台数:169.25万台(−12.2%)
 - −ロシアブランド:41.62万台(−21.6%)
 - −外国ブランド:127.63万台(−8.6%)

(出所:ロシア連邦国家統計局)

ルーブル為替レート、WTI&外貨準備

月/年	ルーブル対ドル為替 レート(M/D)	原油先物価格 WTI per barrel	外貨準備高 (億ドル)翌月初	備考
03/'14	36.4487(3.19)	US\$100.57	4,739億ドル	クリミア編入翌日
04	35.6983(4.30)	\$102.18	4,716	
05	34.7352(5.31)	\$102.00	4,699	
06	33.6306 (6.28)	\$105.24	4,758 (6月末)	
07	35.7271(7.31)	\$102.99	4,684	マレーシア航空機撃墜
08	36.9316(8.30)	\$96.38	4,642	
09	39.3866(9.30)	\$93.35	4,547	ロ・ウ停戦合意
10	43.3943(10.31)	\$84.40	4,286	
11	49.3220(11.29)	\$75.70	4,162	OPEC減産見送り
12	56.2584(12.31)	\$59.10	3,862	金利:9.5-10.5-11.5-17
01/'15	68.7303 (1.31)	\$47.60	3,747	2014インフレ率:11.4%
02	60.7109(2.27)	\$50.75	3,630	第2回停戦合意 2.14
03	58.4643(3.31)	\$47.55	3,608	
04	51.7029(4.30)	\$59.79	3,535	
05	49.9204(5.22)	\$59.86 (5.22)	3,623 (5.15)	

日ソ・日ロ貿易の推移

(単位:億ドル)

年	貿易総額	出来事	年	貿易総額	出来事
1991	54億ドル	ソ連邦崩壊	2005	107億ドル	
1992	35		2006	137	
1993	43		2007	213	
1994	47		2008	298	オバマ大統領 Lehman Shock
1995	59		2009	121	入超に転じた
1996	50		2010	240	
1997	50	アジア通貨危機	2011	307	
1998	39	ルーブル通貨危機	2012	334	プーチン大統領3期目
1999	42		2013	349(332)	
2000	52	プーチン大統領就任	2014	(308)	
2001	46				
2002	42				
2003	60	資源価格高騰→			
2004	89				

財務省貿易統計、ロシア税関庁統計から作成

日ロ二国間貿易の現状

- 2013年の日ロ貿易総額: 349億ドル(日本の貿易総額1兆5,581億ドルの2.2%)

日ロ貿易	2009	2010	2011	2012	2013
日本の輸出(億米ドル)	33	80	119	126	111
日本の輸入(億米ドル)	89	161	189	208	238
輸出入合計額	122	241	308	334	349

(財務省統計)

- 主要貿易品目(2013)

日本の輸出: 乗用車(55.1%), 自動車部品(7.7%), ゴム製品(5.2%), 建設・鉱山機械(4.2%), 鉄鋼(3.0%) etc.

日本の輸入: 原油(43.1%), LNG(26.6%), 非鉄金属(6.7%), 石油製品(6.5%), 石炭(6.0%) etc.

2013日本の貿易相手国(輸出)

(単位:100万ドル)

順位	国名(又は地域名)	金額	前年比	シェア	備考
1	米 国	133,199	▲5.3%	18.5%	
2	中 国	129,851	▲10.3	18.1	2011-12 年:1位
3	韓 国	56,883	▲7.9	7.9	
4	台 湾	41,884	▲9.3	5.8	
5	香 港	37,582	▲8.8	5.2	
14	ロシア	11,067	▲12.5	1.5	
-	ASEAN(10)	111,671	▲14.0	15.5	

ジェトロ国際経済研究課 資料より作成

2013日本の貿易相手国(輸入)

(単位:100万ドル)

順位	国名(又は地域名)	金額	前年比	シェア	備考
1	中 国	182,192	▲3.6%	21.7%	
2	米 国	70,322	▲8.0	8.4	
3	オーストラリア	51,357	▲9.4	6.1	
4	サウジアラビア	50,286	▲8.5	6.0	
5	アラブ首長国連邦	42,852	▲2.9	5.1	
12	ロシア	23,778	14.1	2.8	
-	ASEAN(10)	118,644	▲8.5	14.1	

ジェトロ国際経済研究課 資料より作成

2013日本の商品別輸出概況

(単位:100万ドル)

品目	金額	前年比	シェア	備考
総額	719,205	▲10.3%	100%	
食料品	4,481	0.4	0.6	
原料品	12,458	▲6.4	1.7	
鉱物性燃料	15,727	22.0	2.2	
化学製品	77,421	▲3.2	10.8	
原料別製品 (内 鉄鋼)	94,626 (39,110)	▲10.8 (▲11.0)	13.2 (5.4)	
一般機械	137,645	▲14.7	19.1	
電気機器	124,110	▲13.4	17.3	
輸送用機器	168,499	▲10.6	23.4	
(内 自動車)	(107,277)	(▲7.5)	(14.9)	
その他	84,238	▲7.7	11.7	
(内 科学光学機器)	(22,890)	(▲12.7)	(3.2)	

ジェトロ国際経済研究課資料より作成

2013日本の商品別輸入概況

(単位:100万ドル)

品目	金額	前年比	シェア	備考
総額	838,889	▲5.6%	100%	
食料品	66,807	▲9.2	8.0	
原料品	55,291	▲7.8	6.6	
鉱物性燃料	283,817	▲6.2	33.8	
化学製品	66,778	▲10.4	8.0	
原料別製品	64,414	▲7.0	7.7	
一般機械	61,578	▲2.1	7.3	
電気機器	106,300	▲0.2	12.7	
輸送用機器	28,708	▲1.2	3.4	
その他	105,196	▲4.8	12.5	
(内 衣類同付属品)	(33,516)	(▲0.6)	(4.0)	

ジェトロ国際経済研究課資料より作成

日本の主要国・地域対外直接投資(2011-14)

(単位:100万ドル)

国名・地域名	2011	2012	2013	2014(P)	構成比 (2014)
米 国	14,730	31,974	43,703	41,615	35.2%
EU(28)	36,052	29,023	30,999	23,487	19.9%
ASEAN (10)	19,645	10,675	23,619	20,345	17.2%
中南米(メキシコ、ブラジル、ケイマン諸島)	11,287	10,454	10,197	7,285	6.2%
中 国	12,649	13,479	9,104	6,701	5.7%
韓 国	2,439	3,996	3,296	3,152	2.7%
香 港	1,509	2,362	1,785	2,734	2.3%
ロシア	339	757	447	291	0.2%
世 界	108,808	122,355	135,049	118,181	100.0%

資料:財務省・日本銀行の資料よりジェトロ作成資料の抜粋

日本の主要国・地域対内直接投資(2011-14)

(単位:100万ドル)

国名・地域名	2011	2012	2013	2014(P)	構成比 (2014)
米 国	▲3,197	▲110	1,378	4,474	46.4%
EU(28)	4,537	▲3,005	1,401	▲1,767	n.a.
ASEAN (10)	831	1,003	317	1,504	15.6%
中南米(メキシコ、ブラジル、ケイマン諸島)	▲1,388	▲1,955	▲1,363	299	3.1%
中 国	109	72	140	595	6.2%
韓 国	197	559	48	136	1.4%
香 港	125	872	172	1,919	19.9%
台 湾	111	366	186	1,020	10.6%
ロシア	-	▲15	13	2	0%
世 界	▲1,702	1,761	2,358	9,643	100.0%

資料:財務省・日本銀行の資料よりジェトロ作成資料の抜粋

極東地域発展計画の推移

- **極東ザバイカル経済発展プログラム**(2007年11月ロシア政府決定)
実施期間: 2008~2013年
- **地域間格差是正、APEC開催のためのインフラ整備、輸送インフラ開発、エネルギー・インフラの整備**
2008年8月、ウラジオストク市の開発に関するサブプログラムの予算倍増
(当初予算を倍増し全体の40%→ ルースキー島への橋の建設、極東連邦大学の施設建設)
2009年、サハリン→ハバロフスク→ウラジオストク間のSKVガスパイプラインの建設をAPEC準備事業に組み入れ、2010年更に改定され企業負担を増やし総額6,629億ルーブル(約2兆円)で当初予算の4倍となった。
2011年9月、SKVガスパイプラインの完成→ウラジオストクでのLNGプラント建設計画(投資適格審査)、朝鮮半島へのパイプライン延伸計画
ESPO-2石油パイプライン(スカボロディーノ→ハバロフスク→コズミノ)
2012年12月完成(1年以上前倒しの稼働開始)→ シベリア鉄道に1500万トン/年の余裕が生じた。



2008年~12年、極東に於ける連邦の投資は石油・天然ガスの輸送インフラとAPEC関連の施設整備に集中

極東発展省と先行発展領域法

- イシャーエフ大統領全権・極東発展相(2012年5月~2013年8月)→トルトネフ(Yury Trutnev) 大統領全権
- **ガルシカ**(Aleksandr Galshka)極東発展相(2013年8月~)
- 2014年12月29日「**先行社会経済発展領域法** (“TOR”又は“PDA”)」
成立(極東発展省が策定)。
 - ・連邦構成主体の領域で、投資誘致や加速的な社会経済発展の確保、住民の快適な生活条件創出を目的に政府決定により企業活動及びその他活動の特別な法規体制が設けられる; 優遇税制(利潤税軽減、社会保険料引き下げ)、特別の監督業務体制、インフラへの優先的接続、無関税区域の税関手続き適用、一部地方税・自治体税の免除→**新型経済特区**
 - ・先行発展領域(TOR)の管理監督: 監督評議会(所管連邦機関、地方当局、自治体当局、**運営会社**等)
 - ・TORの**運営会社**(100%国有の株式会社又はその持株51%Min.の子会社): インフラ建設主体業務、入居企業登録、法務・税関手続き、道路建設・運用、インフラ整備、輸送業務、光熱供給、生活環境整備を取り仕切る。
 - ・連邦政府は営利・非営利組織を創設: 資金供給、入居者・投資誘致、人材開発、労働力確保等の支援。

先行発展領域(TOR)と暫定選定リスト(1)

- “極東と東シベリアに輸出向を含む非原料生産を立ち上げるための特例条件を備えた先行的経済発展特別領域のネットワークを創設する”
(2013年12月12日プーチン大統領の年次教書)
- 2015-17年の間に3-5件のTORを創設し、6件の投資プロジェクトを始動。

名 称	立 地	業 種
バザルト-新技術(Bazalt-玄武岩?)	サハ共和国ヤクーツク、ハンガラス、アルダン	建材生産
セーベルヌイ・ミール	ヤクーツク	工業生産(宝石研磨)、観光・レクリエーション
ラキトノエ	ハバロフスク地方ラキトノエ村	工業
ワニノーソビエツカヤ・ガバニ	ワニノ地域、ソビエツカヤ・ガバニ地域	港湾ロジスティクス
コムソモリスク	コムソモリスク・ナ・アムレ市	航空機製造・造船
ナデジュジンスキー	沿海地方ナデジュジンスキー地区ノーブイ町	ロジスティクス
ザルビノ	ハサン地区ザルビノ町	ロジスティクス

先行発展領域(TOR)と暫定選定リスト(2)

名 称	立 地	業 種
ルースキー島	ハバロフスク地方ウラジオストク市ルースキー島	科学技術、教育、レクリエーション
ミハイロフスキー	ミハイロフスキー地区ミハイロフカ村	農業
VNKhK(東部石油化学会社-ロスネフチ子会社)	パルチサン自治体地区エリサワワ峡谷	石油化学
カムチャトカ	カムチャトカ地方ペトロパヴロフスク・カムチャツキー市	港湾
ペロゴルスク	アムール州ペロゴルスク市	加工製造
エカテリノスラフカ	オクチャブリ地区エカテリノスラフカ村	農業
スミドビッチスキー	ユダヤ自治州スミドビッチ地区タニコフカ村、ホロチャエフカ1村	農業

リスト(1)(2): ラジオプレス・ロシア政策動向資料より作成

*TOR策定を背景に極東発展省は2014年9-12月、7総合商社と貿易投資協力の覚書を次々に締結。(伊藤忠・丸紅・住商・豊通・双日・三菱・三井)

ハバロフスク・沿海地方3区域に“TOR”(PDA)創設へ

プロジェクト名/ 区域	用地 面積	投資額 (ルーブル)	財政支出 (ルーブル)	雇用機会 (人)
「ハバロフスク」 ハバロフスク地方・ハバロフ スク市近郊ラキトノエ村： 金属・建築資材・食品工場 ハバ空港、「アバンガルド」 産業パーク	716ha	285.2億	18億	3,095
「コムソモリスク」 ハバロフスク地方・コムソモ リスク・ナ・アムール、「コムソ モリスク・ナ・アムール航空機 生産合同」向部品製造	327ha	152.3億	12億	2,700
「ナジェジンスカヤ」 沿海地方・ウラジオストクに 近接し、アムール湾に面した ナジェジンスク地区の産業 パーク：プラスチック製品・菓 子製造・ロジスティクス	807ha	67.3億	32億 (出所：「ユーラシ ア研究所」堀内 賢志氏、極東発 展省HP)	1,630

極東関連投資プロジェクト

- 39案件より6プロジェクトに165億ルーブルの国家投資と1,265億ルーブルの民間投資
- 6件全て天然資源の採掘加工：
 1. イナグリンスキー採掘・選鉱Complex (石炭会社Kolmar)
 2. ワニノ港・ムチカ湾北岸の石炭積み出し港の建設
 3. 採炭・選炭複合Complex (ウルガル・ウーゴリ SUEK)
 4. セレメジンスク地区・金の採掘 (ペトロパブロフスク・アムール州)
 5. オゼルノフスク金鉱山 (シベリア鉱石採掘カムチャツカ)
 6. タヨージヌイ採掘・選鉱 (Evrasholding・サハ)
- 極東開発案：自由港の地位を与える。
ウラジオストクを中心とする沿海地方南部全域を自由関税ゾーンに； 空港港湾地区、工業地区、科学技術導入地区、観光レクリエーション地区。

ロシア極東連邦管区の概況(基礎的経済指標)

項目	極東連邦管区	ロシア連邦全体	備考
域内総生産・国内総生産(名目) (2012年)	2兆7,033億 ルーブル	62兆2,184億 ルーブル	ロシア全体の4.3%
1人当たり名目域内総生産・国内総生産(2012年)	43万1,453 ルーブル	43万2,250 ルーブル	
鉱工業生産(前年比伸び率) (2013年)	2.0%	0.4%	
消費者物価上昇率(2013年末)	6.6%	6.5% (前年: 6.6%)	
失業率(ILO方式)2013年	6.5%	5.5% (前年: 5.5%)	
外国投資(2013年)	59億7,021万ドル (前年比56%減)	経常収支大幅減 713億→341億ドル	
小売売上高(2013年)	9,227億ルーブル (前年比5.7%増)		

ジェトロ海外調査部資料を元に作成。

極東政策とビジネス動向(1)

- 極東に於ける人口減少対策: トルートネフ極東連邦管区大統領全権がプーチン大統領に提言



極東地域への移住者(居住者を含む)に1haの
国有地を無償譲渡 (極東発展省で具体化検討中、同様の法律が帝政時代のシベリア開発で成果)

- 財政難から「先行発展領域」の選定箇所を削減し
2015-17年の財政支出: 890億→420億ルーブルに
半減 (資源安と経済制裁による歳入減)
- 沿海地方ミクルシェフスキー知事: PDAにナジェジンスカヤを入れ、ルースキー島にミハイロフスキー技術革新ゾーン設置、大ザルビノ港建設等を計画

極東政策とビジネス動向(2)

- ロシア極東初の大型エンタテインメント施設の建設
- 1) プリモーリエ・ゲームゾーン (Naga Entertainment City): 香港ベースの“Naga Corp Ltd”と中国“China Harbor Engineering System”(建設)がアルチョム市にホテル・カジノを中心とする統合型リゾートを建設。3.5億ドルを投資し2021年までに完成。(5/22発表)
 - 2) “PIKV”(極東最初のギャンブル会社)がウラジオストク市内に本年8月に“Tigre de Cristal”をオープン予定(香港の華僑資本でマカオ初め世界中でカジノリゾートを経営。4000人の雇用を実現。(5/24発表))

ロシア極東連邦管区の構成と人口及びイルクーツク州の人口

連邦構成体 (行政府所在地)	人口	構成比(%)
極東連邦管区 (ハバロフスク:トルートネフ大統領全権在)	6,226,640人	100%
沿海地方 (ウラジオストク:ミルシェフスキー知事)	1,938,516	31.1
ハバロフスク地方 (ハバロフスク:シュホルト知事)	1,339,912	21.5
サハ共和国<ヤクーチア> (ヤクーツク)	954,803	15.3
アムール州 (ブラゴベシチェンスク)	811,274	13.0
サハリン州 (ユジノサハリンスク)	491,027	7.9
カムチャツカ地方 (ペトロパヴロフスク・カムチャツキー)	319,864	5.1
ユダヤ自治州 (ヒロビシヤン)	170,377	2.7
マガダン州 (マガダン)	150,312	2.4
チュクチ自治管区 (アナディリ)	50,555	0.8
シベリア連邦管区 (ノボシビルスク:トロンスキー大統領全権在)	20,792,500人	100%
イルクーツク州 (イルクーツク:エロシェンコ知事)	2,323,000	11.2

極東連邦管区の主要貿易品目(2014)

(単位:千ドル)

品目	輸出	%	輸入	%	貿易高	%
食料・農業原料	2,321,098	8.1	1,148,219	10.9	3,469,317	8.9
うち魚介類	2,196,927	7.7	64,903	0.6	2,261,830	5.8
鉱産物	20,032,344	70.3	159,443	1.5	20,191,787	51.8
うち燃料・エネルギー	19,428,105	68.2	100,649	1.0	19,528,754	50.1
化学工業製品・ゴム	40,524	0.1	977,595	9.3	1,018,118	2.6
皮革原料・毛皮その製品	1,505	0.0	63,582	0.6	65,087	0.2
木材・パルプ製紙製品	1,028,061	3.6	210,933	2.0	1,238,995	3.2
紡績糸・繊維製品・靴	512	0.0	712,125	6.8	712,637	1.8
金属とその製品	474,624	1.7	1,189,077	11.3	1,663,701	4.3
機械・設備・輸送手段	271,430	1.0	5,414,344	51.6	5,685,775	14.6
その他	4,321,161	15.2	613,318	5.8	4,934,479	12.7
総額	28,491,260	100	10,488,636	100	38,979,895	100

極東連邦管区:アムール州、ユダヤ自治州、カムチャツカ地方、マガダン州、沿海地方、サハ共和国、サハリン州、ハバロフスク地方、チュクチ自治管区

(出所:ラヂオプレス・ロシア政策動向)

極東連邦管区の相手国(CIS域外)別貿易高(2014)

(単位:千ドル)

No.	国名	貿易高	比率(%)	2013年比
1	日本	10,240,042	26.3%	-0.8%
2	韓国	10,227,583	26.2	+1.5
3	中国	10,141,204	26.0	-1.7
4	ベルギー	2,846,736	7.3	+0.8
5	米国	861,796	2.2	+/-0
6	インド	738,259	1.9	-0.1
7	イスラエル	575,132	1.5	+0.2
	その他	3,315,904	8.5	
	合計	38,946,656	99.9	-2.6

*極東の貿易高全体の78.5%を日本、韓国、中国が占める。

ロシア連邦税関庁極東税関局データを基にしたラヂオプレス・政策動向より抜粋

2014年日露関係重要事項

月	日露関係重要事項
1	東京で日露次官級協議(モルグロフ外務次官)
2	プーチン大統領、ソチで安倍首相と会談(秋田犬「ゆめ」と出迎え)。
3	北海道銀行ウラジオ駐在員事務所開設。日揮がハバ地方と温室栽培覚書。「みらい」がハバ企業と人工光型植物工場。KHI/双日がウラジオ、アルチョムで小型熱電供給所建設覚書。ロスネフチ・セチン社長日ロフォーラムに出席。
4	岸田外務大臣訪ロ延期。日本対ロ追加制裁発表(公職者23人の入国一時停止)。
5	谷内国家安全保障局長が3月に続き訪ロ(パトルシェフ安全保障会議書記他)
6	JFEエンジニアリングがオランダ・プリバと協業してロシア極東でスマートアグリを展開発表。ナルイシキン下院議長が日ロ文化フェスティバルに来日。
7	丸紅が三井三池製作所と共同でポストーチヌイ港向石炭積み出し設備納入契約。
8	日本は対ロ制裁拡大(個人40人と2企業の資産凍結他)。ロゴスホームとホームテックの現地法人がウラジオストクで住宅内装のモデルルーム開設。
9	9-12月極東発展省は伊藤忠、丸紅、住商、豊通、双日、三菱、三井と貿易投資協力の覚書を締結。日本除雪機製作所がサハリンにRotary除雪車3台出荷。
10	安倍首相、アジア欧州会議でプーチン大統領と会談
11	プーチン大統領APEC首脳会議(北京)で安倍首相と会談。

出所:ラジオプレス・ロシア政策動向及びジェットロ海外調査部資料より抜粋。

秋田県の貿易動向

項目	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
秋田の輸入	775億円	961億円	1607億円	1898億円	2217億円
秋田の輸出	217億円	273億円	334億円	307億円	337億円
輸出入総額	992億円	1234億円	1940億円	2205億円	2554億円

2013年の品目別

【輸入品目】石油及び同製品:29.4%、非鉄金属鉱:22.8%、石炭・コークス及び練炭:14.6%、木材:8.3%、パルプウッド等:2.4%

【輸出品目】非鉄金属:28.8%、輸送用機器:17.4%、一般機械:12.4%
紙類及び同製品:9.7%、金属鉱及びくず:9.5%

(秋田県産業労働部の資料から作成)

秋田県の国・地域別輸出入動向(2012年)

【国・地域別輸出入構成比】 2012年

【輸入】 1,898億円 韓国:17.8%、オーストラリア:16.5%
インドネシア:11.1%、米国:9%、中国:8.1%、ボリビア:5.9%
マレーシア:5.7%、ロシア:4.2% (8位)

【輸出】 307億円 中国:20.4%、韓国:14.2%、米国:14.2%
ドイツ:9.6%、インドネシア:6.9%、台湾:6.7%、マレーシア:
5.3%、ベトナム:3.9%・・・ロシア:2.0% (12位)

商品別輸出入統計:秋田県HP貿易統計資料(函館税関『外国貿易年表』)より作成。

秋田と(ロシア)沿海地方との交流

- ・ 渤海国からの遣使: 727年、渤海使出羽国に到着(733年、出羽柵を秋田村高清水丘に移す) 746年、1100人余来航 771年、渤海国使等325人能代湊に到着等、795年までに渤海国の使者が度々秋田に到着(漂着)し、都に向かった。(新野直吉・秋田の歴史他)
- ・ 1910年～22年 高橋義雄のユーラシア横断(秋田魁新報社・ユーラシアを駆けた男)
- ・ 大正時代から土崎港に木材荷揚げ。
- ・ 日本海時代到来に備える:1960年代後半～70年代(小畑県政)に10年間で7～8回ソ連極東に毎回200～250名の青年をナホトカ経由ハバロフスク、モスクワに派遣し、秋田の商談会を開くなど延べ合計約1500名が訪ソ。
- ・ 1992年 ウラジオストク市と秋田市の間で姉妹都市締結。
- ・ 2010年 沿海地方・ダルキン知事と秋田県・佐竹知事の間で包括協力協定締結。
- ・ 2012年 7月秋田犬「ゆめ」ロシア連邦・プーチン大統領に贈呈。
- ・ 2012年 11月秋田県知事一行、ミクルシェフスキー沿海地方知事と会談、包括協力協定書の有効性の確認と経済交流・人的交流・学術交流の発展で合意。
- ・ 2012年 11月秋田商工会議所・沿海地方商工会議所と覚書調印。
- ・ 2013年 2月プーチン大統領より秋田犬「ゆめ」の返礼として贈られたシベリア猫「ミール」が検疫を終え秋田県知事に届けられた。
- ・ 2013年 7月秋田商工会議所、中露物流調査・経済交流ミッション派遣
- ・ 2014年 11月秋田商工会議所が延邊・沿海地方の国貿促・商議所と3地域間経済交流協定書を締結。同11月国際教養大学で3地域経済交流拡大のための国際シンポジウム開催。同11月秋田県ウラジオストク・ハバロフスク訪問団派遣。

秋田県の商品別(上位5品目)輸出統計(2011-13)

(単位:億円)

順位	2011年 品目	2011年 金額	2012年 品目	2012年 金額	2013年 品目	2013年 金額	2013年 前年比
1	自動車の 部分品	88.3	亜鉛&同 合金	71.0	亜鉛&同 合金	96.6	136%
2	ポンプ& 遠心分離 機	49.9	自動車の 部分品	64.0	自動車の 部分品	46.9	73.3%
3	紙&板紙	31.3	ポンプ& 遠心分離 機	36.0	紙&板紙	32.5	174.2%
4	鉄鋼のく ず	31.0	鉄鋼のく ず	29.2	ポンプ& 遠心分離 機	30.0	83.3%
5	亜鉛&同 合金	30.0	紙&板紙	18.6	鉄鋼のく ず	28.9	99.0%
合計		333.6		306.5		336.7	109.8%

秋田県の商品別(上位5品目)輸入統計(2011-13)

(単位:億円)

順位	2011年 品目	2011年 金額	2012年 品目	2012年 金額	2013年 品目	2013年 金額	2013年 前年比
1	石炭	369.0	石油製品	412.2	非鉄金属 鉱	482.6	167.9%
2	非鉄金属 鉱	284.3	石炭	379.5	石油製品	391.6	95.0%
3	石油製品	204.3	非鉄金属 鉱	287.4	石炭	322.5	85.0%
4	木材	176.6	原油&粗 油	216.4	原油&粗 油	243.6	112.6%
5	原油&粗 油	167.8	木材	142.8	木材	184.1	128.9%
合計		1,606.7		1,898.2		2,177.1	118.1%

商品別輸出入統計:秋田県HP貿易統計資料(函館税関『外国貿易年表』)より作成。

秋田県の国・地域別(上位5カ国)輸出統計(2011-13)

(単位:億円)

順位	2011年 国・地域	2011年 金額・%	2012年 国・地域	2012年 金額・%	2013年 国・地域	2013年 金額・%	2013年 前年比
1	中国	70億円 21%	中国	62.5億 20.4%	中国	68.0億 20.2%	108.8%
2	米国	64.2億 19.2%	韓国	43.6億 14.2%	韓国	45.7億 13.6%	104.7%
3	韓国	56.1億 16.8%	米国	43.5億 14.2%	米国	36.4億 10.8%	83.7%
4	オランダ	25.8億 7.7%	ドイツ	29.4億 9.6%	ドイツ	28.8億 8.6%	98.0%
5	ドイツ	18.2億 5.5%	インドネシ ア	21.1億 6.9%	台湾	26.9億 8.0%	131.7%
合計		333.6億		306.5億		336.7億	109.8%

商品別輸出入統計:秋田県HP貿易統計資料(函館税関『外国貿易年表』)より作成。

秋田県の国・地域別(上位5カ国)輸入統計(2011-13)

(単位:億円)

順位	2011年 国・地域	2011年 金額・%	2012年 国・地域	2012年 金額・%	2013年 国・地域	2013年 金額・%	2013年 前年比
1	オーストラ リア	324.2億 20.2%	韓国	336.5億 17.7%	オースト ラリア	392.8億 18.0%	125.4%
2	インドネシ ア	181.9億 11.3%	オースト ラリア	313.1億 16.5%	韓国	318.3億 14.6%	94.6%
3	韓国	142.0億 8.8%	インドネシ ア	210.3億 11.1%	インドネシ ア	222.5億 10.2%	105.8%
4	米国	141.2億 8.8%	米国	171.1億 9.0%	米国	212.5億 9.8%	124.2%
5	中国	135.1億 8.4%	中国	154.5億 8.1%	ボリビア	161.0億 7.4%	144.8%
合計		1,606.7 億		1,898.2 億		2,177.1 億	114.7%

商品別輸出入統計:秋田県HP貿易統計資料(函館税関『外国貿易年表』)より作成。

秋田県と日本全体の経済指標対比(2011-12)

(単位:億円)

	区 分	2011年度	2012年度	
秋 田 県	県内総生産(名目)	34,832 (+0.4%)	35,017 (+0.5%)	
	県民所得	25,234 (+0.9%)	26,037 (+3.2%)	
	一人あたりの県民所得(千円)	2,348 (+2.0%)	2,450 (+4.4%)	
全 国	国内総生産(名目)	4,736,691 (-1.4%)	4,725,965 (-0.2%)	
	国民所得	3,490,563 (-1.0%)	3,511,139 (+0.6%)	
	一人当りの国民所得(千円)	2,733 (-0.8%)	2,754 (+0.8%)	
秋田県内総生産の対全国シェア(%)		0.74	0.74	
一人当りの県民所得の対全国比(%)		85.9	89.0	

資料:秋田県調査統計課「平成24年度秋田県県民経済計算確報」より作成。

経済活動別秋田県内名目総生産(2011-12)

(単位:百万円、%)

区 分	2011年度	2012年度	2012年度 構成比(全国)	
第一次産業(農業・林業・水産業) (農業)	114,543 (102,843)	122,495 (111,321)	3.5% (1.2%) (3.2%)	
第二次産業(鉱業・製造業・建設業) (鉱業)	635,336 (8,048)	636,799 (9,061)	18.2% (23.8%) (0.3%)	
	(製造業)	(431,916)	(417,909)	(11.9%)
	(建設業)	(195,372)	(209,829)	(6.0%)
第三次産業(サービス業他) (サービス業)	2,736,043 (676,782)	2,743,897 (684,773)	78.4% (63.0%) (19.6%)	
	(不動産業)	(548,076)	(550,198)	(15.7%)
	(卸売・小売業)	(388,404)	(388,172)	(11.1%)
	(運輸業)	(165,766)	(169,940)	(4.9%)
政府サービス生産者(公務、電気・ガス・水道、サービス業)	526,202	515,561	14.7% (9.2%)	
対家計民間非営利サービス生産者	87,053	93,745	2.7% (2.4%)	
秋田県内総生産	3,483,248	3,501,659	100%	

資料:秋田県調査統計課「平成24年度秋田県県民経済計算確報」及び内閣府統計より作成。

訪口青年ビジネスチャレンジ事業報告会について

日時	平成 27 年 9 月 3 日(木) 15:30~17:00
場所	秋田県総合庁舎 5 階 502 会議室 (秋田市)
出席者	若手訪問団員 19 名及び県事務局 6 名 計 25 名

1. あいさつ 山脇国際課長

若手訪問団員の方々から提出してもらったアンケートの結果と報告書を読ませてもらったが、今後の事業の参考としたい。今日の会議の意見交換では、グループごとに話し合い発表するワークショップ形式で行うので忌憚のない意見を述べてもらいたい。

2. 訪問結果について 国際課 須磨班長

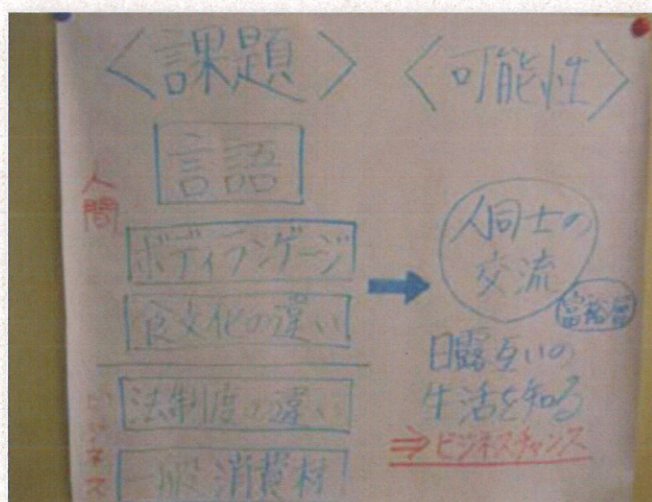
- ・参加者アンケート結果について紹介 (別添資料)

3. 意見交換

次の2つのテーマについて、4つのグループごとの話し合いの後、発表。

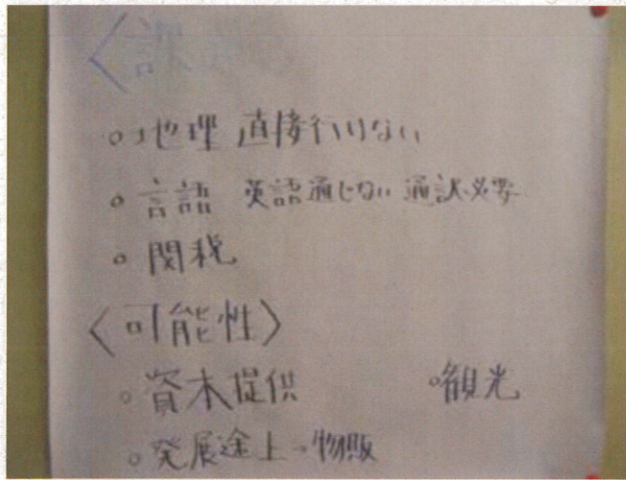
1) 秋田県とロシア極東との交流の可能性と課題について

①



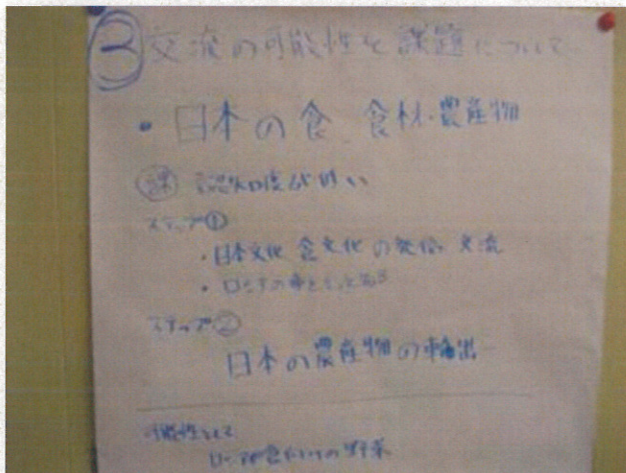
富裕層など人同士の交流、日露互いの生活を知ることにより、ビジネスチャンスあり。

②



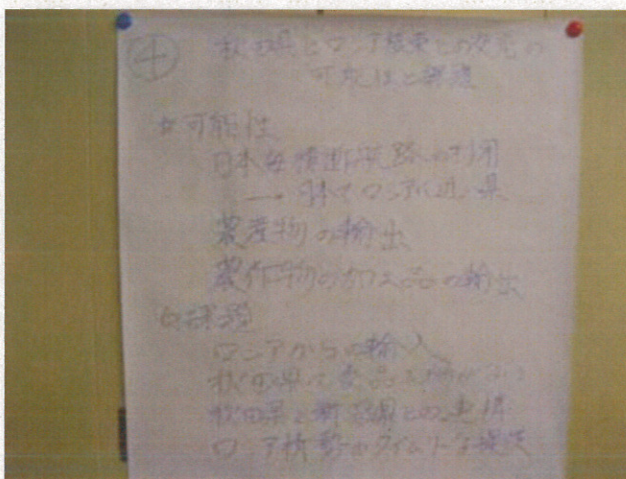
資本提供、観光、物販などで交流の可能性あり。

③



野菜など日本産農産物輸出の可能性あり。

④

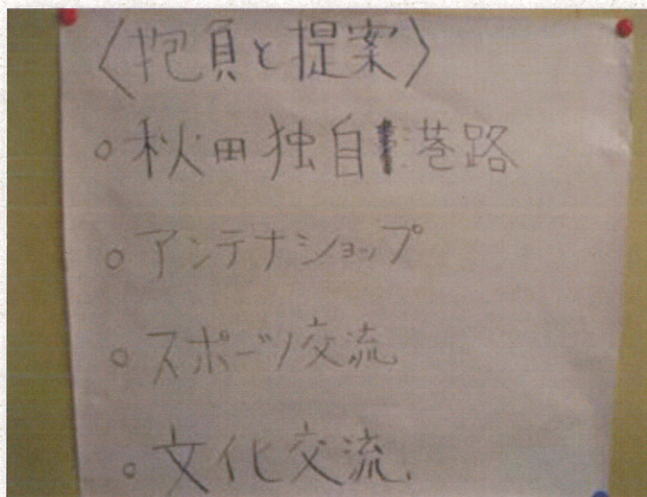


農産物、農産加工品の輸出の可能性あり。

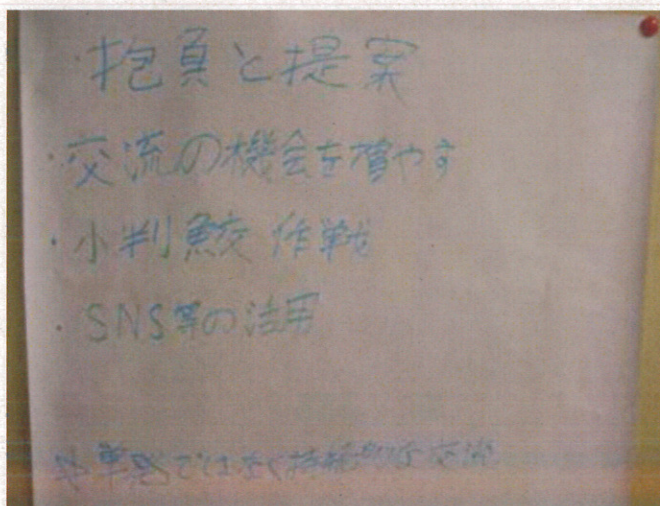


2) ロシア極東との交流への抱負、提案等

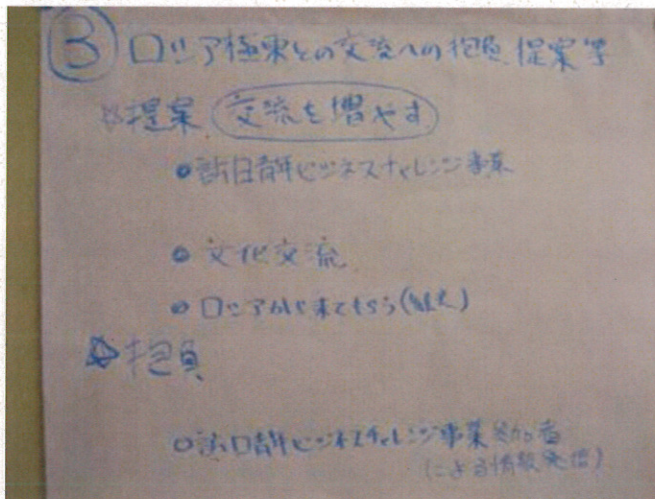
①



②

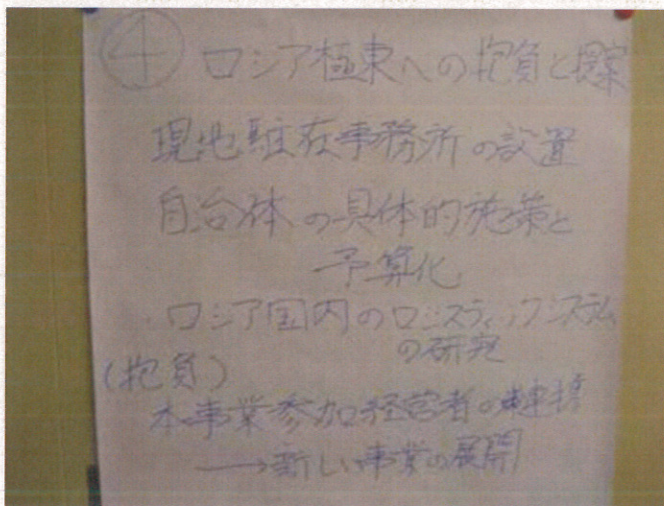


③



訪日青年ビジネスチャレンジ事業参加者による情報発信

④



本事業参加経営者の連携により新しい事業の展開を図りたい。

訪口青年ビジネスチャレンジ事業参加者アンケート結果

平成27年9月1日
秋田県企画振興部国際課

参加若手団員 31名全員回答

いずれかを選択してください。

- 今回の事業に参加して、
① よかった。 31名全員 ②ふつう ③不満
- 訪問時期については、
① よかった。23名 ②ふつう。7名 ③よくなかった。1名 最良時期(6, 7, 9)月
・真冬でなければよい。
- 訪問期間については、
① 長過ぎた。 10名 ②よかった。 21名 ③短か過ぎた。 最良期間(3, 4, 5, 6, 7)日間
- 本事業の次の項目について該当するものに○を記入ください。

<ウラジオストク>

単位：名

	① よかった	② ふつう	③ 不満
日本センター講演	26	5	
5周年記念フォーラム	20	6	5
情報交換会	9	13	9
企業訪問(スモートリ)	7	5	
ウラジオストク商業港視察	4	7	
企業訪問(ロゴスホーム)	15	5	
企業訪問(沿海製菓)	12	7	2
企業訪問(エーラン)	10	10	
スーパーフレッシュ25訪問	8	8	5
極東連邦大学医療センター訪問	8	5	
極東連邦大学訪問	10	5	
企業訪問(ザハール)	1	8	1
シベリア鉄道乗車	12		

<イルクーツク>

	① よかった	② ふつう	③ 不満
バイカル湖近郊視察	14	2	
スーパースターク訪問	10	6	
農場視察	13	3	
養鶏場訪問	13	3	

<ハバロフスク>

	① よかった	② ふつう	③ 不満
ウラジオストク工業団地訪問	2	8	2
企業訪問 (ハルチバール)	5	5	1
乳製品製造工場訪問	6	6	

5. 宿泊ホテルについて、

	① よかった	② ふつう	③ 不満
プリモリエ(ウラジオストク)	5	18	8
マリオット (イルクーツク)	14	1	1
インツリスト(ハバロフスク)	10	15	3

6. レセプションについて

	① よかった	② ふつう	③ 不満
ウラジオストク	16	10	5
イルクーツク	9	7	
ハバロフスク	7	5	3

7. 来年度、本事業を継続実施する場合、改善すべき点があれば記入をお願いします。

- ・旅程は長くとも3泊4日ぐらいが望ましい。(前後の業務にかなりしわ寄せがくる。)
- ・滞在期間について若干長いと感じた。5泊6日位が丁度いい。日程調整が必要となると思うが、厳選して日程を短くした方がいい。
- ・旅行日程については、予定調整に苦労したので、6泊7日程度がちょうど良いのではないか。
- ・訪問時期について、気候のうえで6月辺りでも良いかもしれません。
- ・訪問目的をもっと明確にした方が良い。明確にしたうえで参加者を絞っても良い。
- ・訪問日程等の早期確定(遅くとも1週間前)
- ・訪問する企業の業種を絞る、または業種を絞って参加者を募る。
- ・人数も当初70名で募集していたが、40名程度でも良いと思う。
- ・議員は2名程度、もしくは必要ないと思う。
- ・ロシアという広大な土地(国)という事もあるが、訪問する都市を厳選し、移動時間を削減すれば、より効率の良い視察を行う事ができると考える。(市内視察も含め)
- ・企業視察は業種が異なっても学べるが多かったので、来年度以降も継続してほしい。
- ・1日目か2日目などに日系企業からの話を聞きたい。なぜ、ロシアに進出したのか?どのような経緯で商売ができるようになるのか?などプロセスを聞きたい。
- ・宿泊施設は参加者全員が同じ宿泊施設に宿泊すべきと考える。(良いホテル、悪いホテルという事ではない。)
- ・土地柄もあるのだろうが、ホテルにはエアコンは欲しかった。
- ・事前研修会では、実際の訪問場所の詳細を共有する。(大半の参加者が、フォーラムの際に驚いていた。)
- ・参加者が渡航前に交流する機会の設営
- ・秋田側の参加者とロシア側の参加者の目的意識にかなりの齟齬があったように思う。参加人数を絞っても良いので、予めもっとマッチングを図るべきだ。

- ・出国前までに相手企業の情報（内容、参加者氏名含む）をできるだけ細かく教えてもらいたい。
- ・自社の取り組みや紹介の場（プレゼンもしくは商談会のような）が必要。県からの紹介の際にももう少し細かく紹介願いたい。業種だけではないまい。
- ・日本からの訪問団の参加企業の情報が、先方企業に伝わっておらず、「商談」を行うというレベルではなかった。
- ・イルクーツクでのバス移動（スピードなど）は考慮した方が良くと思う。
- ・情報交換会やレセプションは、急に質問と言われても難しいので、事前に日本側の参加者へ内容説明や打ち合わせをしっかりとすべき。
- ・レセプションの際の名簿（職種等）の事前配付
- ・レセプションも日本・ロシアともに、事前にどういった情報交換をしたいか調査しておく、よりスムーズに情報交換できたと思う。
- ・現地での情報交換会において、ロシア側の参加企業・団体の情報が秋田側にも提供されることにより、より有意義な情報交換の機会になると思う。
- ・レセプションの際に、前もって相手側の資料をもらいたい。
- ・情報交換会において、事前の趣旨説明や参加者への情報提供
- ・情報交換会でロシア側参加者との間に大きなギャップを感じた。
- ・今回の情報交換会で経験したことを、写真等使って事前に紹介すれば次回の参加者もイメージしやすいと思う。
- ・募集段階で視察先の詳細がほぼなかった点は、参加の検討をする上で参加を躊躇してしまうと思うので、もっと詳しい説明があった方がよいと思う。
- ・視察先としては、なぜここを視察するのか？と思う場所（沿海製菓や養鶏場—直前の農場と重複している—など）もあり、視察先を検討する際は、「なぜここか／参加者に何を見せたいのか」を考えて場所を設定して欲しい。
- ・日本（秋田）側とロシア側の目線をもう少し精査してほしい。（投資目的のロシア側と視察目的の日本側では温度差があり過ぎたように感じた。）
- ・全日夕食まで同行は不要。節目でのセッティングだけで良い。夕刻からの自由行動の時間が作れた方が時間的な余裕を作り出せる。同様の行程をセッティングするのであれば、中日に休める日程の方が良い。
- ・現地大学生（特に日本語を学んでいる学生等）との交流会があってもよい。
- ・現地企業との意見交換会は、①事前に日露双方の希望アジェンダを提出する、②参加企業リストを出国前に配布する といった情報提供をお願いしたい。
- ・担当セクションは別として、日露双方のビジネス的なアフターフォローをお願いしたい。特に初段においては、言葉の障壁が高いと感じた。
- ・期間が少し長かったので、全行程に参加する事はできなかったが、日程を調整してもらい大変助かった。
- ・知事と参加若手経営者との懇親会は突然の申出にも関わらず快諾いただき、大変感動した。参加者からも同様の感想が出ていた。
- ・食事の量はもっと減らしても問題ない。（特に昼食はもっと軽いものでも結構）
- ・参加者が全体の場で自己紹介できるような機会が早い段階で設けられていれば、参加者同士がお互いを知った上で、より親睦を深められたのではないかという声が他の参加者から多くあがっていた。
- ・日中の観光時間をもう少し取れば良いと思った。理由として、バスから見るだけでは、街の雰囲気などを感じる事ができない。

- ・知事、議員との意見交換の場も設ける事ができれば更に有意義な視察になるかと考える。
- ・5周年記念フォーラムの時の通訳の言っている事がわかりにくかった。
- ・今回のロシア訪問で感じたのは、ロシア側は「業務提携」ではなく、「事業投資」を求めているように思えます。私にも現地メディア含め、3社ほど接触してきましたが、何れも「どのような分野に投資を行いたいか？」という趣旨の質問でした。またレセプションにおいても、ロシア側の企業は殆ど見受けられませんが、これは、日本側から、どのような企業が来るのか説明不足、告知不足であったのではないかと思います。これらを鑑み、もう数回は訪問を繰り返す必要が有ると思います。次回においては、ロシアの訪問先を県側が主導で決めるのではなく、ロシア訪問を希望する県内から、事前に得たい情報や訪問してみたい事業所のアンケートを取り、それらに該当するロシアの事業所をピックアップし、訪問先を決めた方が良いと思います。並行して秋田から訪問する企業がどのような企業で、どのような特技・特色があり、提携する事により、どのような強みやメリットが享受出来るか、という事をロシア当局に具体的に伝え、それを告知して貰う事によって、興味を持ったロシア側からの提携希望企業が年々増えてくると思います。